



第3次那覇市 生涯学習推進計画



那覇市
令和7年3月

本市は、平成25年3月に「那覇市生涯学習推進計画」、平成30年3月に「第2次那覇市生涯学習推進計画」を策定し、「市民が生涯にわたって学習することができ、その成果が生かされる社会の実現」を目的に様々な生涯学習関連施策を推進してきました。

その間、少子高齢化や人口減少の進行に加え、コロナ禍に伴う社会変容もあり、市民の価値観やライフスタイルは多様化してきています。さらに、生成AI等の技術革新やグローバル化など、私たちを取り巻く生活環境が急速に変化していく中、人と人とのつながりの希薄化、社会的に弱い立場にある人々の生きづらさなど、様々な課題が顕在化・深刻化し、社会的包摂とその実現を支える地域コミュニティが一層重視されるようになってきました。

このような社会情勢の変化に対応するため、本市では、令和5年10月に第5次那覇市総合計画（平成30年策定）の中間見直しを行い、新たな視点として、「デジタル社会の実現（DX）」や「持続可能な社会の実現（SDGs）」及び「生きがいのある社会の実現（Well-being）」の3つを「まちづくりを支える新たな架け橋」として加え、各施策の推進に取り組んでいます。

また、生涯学習分野においても、那覇市総合計画を補完する位置づけにある第3次那覇市生涯学習推進計画を策定しました。本計画では、第2次那覇市生涯学習推進計画の基本理念「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」を引き続き継承し、「協働による生涯学習のまちづくり」、「『まなびと実践』によるコミュニティづくり」、「県都『なは』の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり」の3つを基本方針として掲げています。本計画を、市長事務部局や教育委員会だけでなく、上下水道局、消防局も含めて組織横断的に一体となって推進してまいります。

人生100年時代、一人ひとりが生涯にわたり主体的に学び続け、豊かな人生を送ることのできる社会の実現を目指し、引き続き市民の皆様と共に取り組んでまいりますので、今後とも、本市の生涯学習の推進に向け、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、専門的な観点から貴重なご意見をいただきました那覇市生涯学習推進協議会の皆様をはじめ、アンケート調査やパブリックコメント等で広く意見を頂戴しました市民の皆様に心から御礼を申し上げます。

令和7年3月

那覇市長 知念 覚



本市教育委員会では、『郷土の歴史と文化を活かし、「あけもどろの都市・なは」を拓く人間性豊かな人材の育成をめざして教育を推進する』という教育理念を掲げ、教育施策の推進に努めております。

生涯学習の推進については、「第3次那覇市教育振興基本計画（令和3年3月策定）」の政策の一つに「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」を掲げ、施策として「どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる」、「どこでも誰でも生涯学習スポーツができるまちをつくる」、「学校が学びや育ちの拠点となるまちをつくる」こととして、様々な取り組みを図ってまいりました。

生涯学習は、教育基本法において、「一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現を図らなければならない」と定義しております。

変化の激しい現代社会において、持続可能な生涯学習社会を実現するためには、年齢・性別・国籍・障がい等の有無に関わらず、誰もが学び続ける公平で包括的な環境整備や支援、多様な学習機会の充実が一層重要となります。

この度、第3次那覇市生涯学習推進計画を策定しました。家庭・学校・地域の相互連携のもと、市民が学び続け、実践やつながりづくりができるよう地域の教育力を高めながら、引き続き、継続的かつ体系的に取り組み、子どもから大人まで幅広い世代の方々のウェルビーイングにつながる学びのサポートを推進してまいります。一人ひとりの学びを通して、地域への誇りや愛着等の醸成や世代を超えた交流の機会を大切に、互いに学び合い、支え合うことで、めざすまちの姿「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りまちN A H A」の実現へとつながることを期待しています。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

那覇市教育長 宮里 寿子



～プロローグ～	1
第1章 計画の策定にあたって	2
1.1.計画策定の意義	
1.2.計画策定の目的と位置づけ	
1.3.第2次那覇市生涯学習推進計画の評価	
第2章 生涯学習の現状と課題	5
2.1.生涯学習について国、県の動向	
2.2.那覇市における生涯学習の動向と課題	
第3章 生涯学習の推進にあたっての基本理念	7
3.1.基本理念と基本方針	
第4章 施策体系	8
4.1.第3次那覇市生涯学習推進計画の体系	
第5章 計画推進のしくみ	23
5.1.施策・事業の評価と活用	
5.2.計画の推進に向けて	
用語解説・コラム等	26
 ■ 資料編	
No. 1 第3次那覇市生涯学習推進計画策定要領	31
No. 2 第3次那覇市生涯学習推進計画の策定経過	34
No. 3 第3次那覇市生涯学習推進計画について（諮問）	35
No. 4 第3次那覇市生涯学習推進計画について（答申）	36
No. 5 那覇市生涯学習推進協議会規則	37
No. 6 那覇市生涯学習推進協議会委員名簿	38
No. 7 第2次那覇市生涯学習推進計画 評価一覧	39
No. 8 市民アンケート	41

『人生100年時代を彩る「学び続ける力」をすべての世代に』

「人生100年時代」と聞いて、どのようなことを考えますか？
人生をより豊かなものにするために、大切にしたいことはありますか？

「自分らしくありたい」「成長したい」
「生活をより良くしたい」「楽しく過ごしたい」
「困った時に助け合いたい」など、
色々な声が聞こえてきそうです。

生涯学習は、一人ひとりが主役となって学び続けることで、
自分の人生だけでなく、地域社会をより豊かにするものとして、
近年その重要性が高まっています。

この計画は、私たち一人ひとりが、自分らしさと地域における
「幸せ（ウェルビーイング）」を実現するために、
学ぶことの大切さを知り、学びを通して、
市民の皆さんと地域の幸福度を高めたいとの思いが込められています。

一人ひとりが学びを通して、
昨日より今日、今日より明日が、
日々より良くなっていくとしたら、人生や暮らしが
さらに豊かで、彩に満ちたものとなるかもしれません。

生涯学習と意識しなくても、
日常の様々な場面で、人、もの、ことなど、
多くの対象から学ぶ機会に触れていることもあります。

人生100年時代と言われる中、
この先の人生において、今日が一番若い日だとしたら、
あなたなら、どんなことを学んでみたいですか？

第1章 計画の策定にあたって

1.1.計画策定の意義

社会情勢の変化への対応

第2次生涯学習推進計画期間（H30～R6年度）において、少子高齢化・人口減少の進行に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会変容により、交流の希薄化や困難な立場にある人々などに関する社会課題が顕在化されました。そのような中、学校教育においては、「GIGAスクール構想」によるハード・ソフト・人材の整備が加速し、国においては、デジタル庁、こども家庭庁が新たに発足しました。第11期及び第12期中央教育審議会（以下、「中教審」という。）では、2040年以降の社会を見据え、Society.5.0に対応するためのリカレント教育、共生社会の実現に向けた社会的包摂の推進、すべての人のウェルビーイングの実現について審議されました。

＜関連する主な計画等＞

関連計画等	概要
第4期教育振興基本計画 （2023年 文部科学省）	・平成18年に全面改正された教育基本法に基づき、政府が策定する教育に関する総合計画 ・めまぐるしく変化する社会で、一人一人が社会の担い手となること、社会全体のウェルビーイングの向上を目指す、教育の羅針盤となる計画
第3期沖縄県教育振興基本計画 （2022年 沖縄県）	・希望と活力にあふれる豊かな県づくりのため、その基盤となる人材育成を図るための計画 ・沖縄県の教育振興のための施策に関する基本的な計画として、教育行政運営の基本として策定
第四次沖縄県生涯学習推進計画 （2023年 沖縄県）	・「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」に掲げる将来像の実現に向け、総合行政として県の全部局が一体となって生涯学習を推進するための基本方針 ・県、市町村、関係団体等の役割を明らかにし、行政、学校、家庭 地域住民、様々な関係団体が連携・協力して全県的に生涯学習の推進を図る指針
第3次那覇市教育振興基本計画 （2021年 那覇市）	・本市の「教育の基本理念」のもと、「教育の目標」の実現に向けて、本市の教育に関する施策を体系的に示す

生涯学習に求められる役割の変化

人生100年時代、SDGs、DXの急速な社会の進展など、将来の予測が困難な時代において、生涯学習が担う役割も、従来の枠に囚われず、時代に即した視点を取り入れることが求められています。第11期中教審において、生涯学習は基本的な役割に加え、以下の役割が重要視されています。

- 1）生涯学習が担う基本的な役割
- 2）ウェルビーイングの実現
- 3）地域コミュニティの基盤としての役割
- 4）社会的包摂の実現を図る役割

＜生涯学習のイメージ図＞

生涯学習

教育による学習

＜社会教育による学習＞

- 公民館、図書館、美術館、博物館等の社会教育施設で行う学習
- 行政、生涯学習関係機関、団体、事業者、企業等が行う学習
- 市民等が行う組織的な教育活動など

＜学校教育による学習＞

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、
大学・専門学校等における教育

＜家庭教育による学習＞

- 基本的生活習慣の習得
- 家庭内におけるしつけなど

自己学習

書籍、インターネット、
テレビ等を活用した
個人学習など



生涯学習とは、職業や生活に必要な知識を身につけ自己実現を図るためのものです。自己学習のほか、学校教育や家庭教育を含む、社会教育における他者との学び合い、教え合いにより豊かな学びにつながるものとされています。

1.2.計画策定の目的と位置づけ

計画策定の目的

生涯学習の重要性を共有し、第5次那覇市総合計画のめざすまちの姿（「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」）及び第3次那覇市教育振興計画で掲げる政策（「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」）の実現に向けた本市の基本的な考えと方向性を示すことで、庁内外と連携し、関係する施策を体系的・計画的に推進することを目的とします。

● 市民・事業者視点

生涯学習に関する市の考えや方向性を共有し、協働による取り組みを促進します

● 職員視点

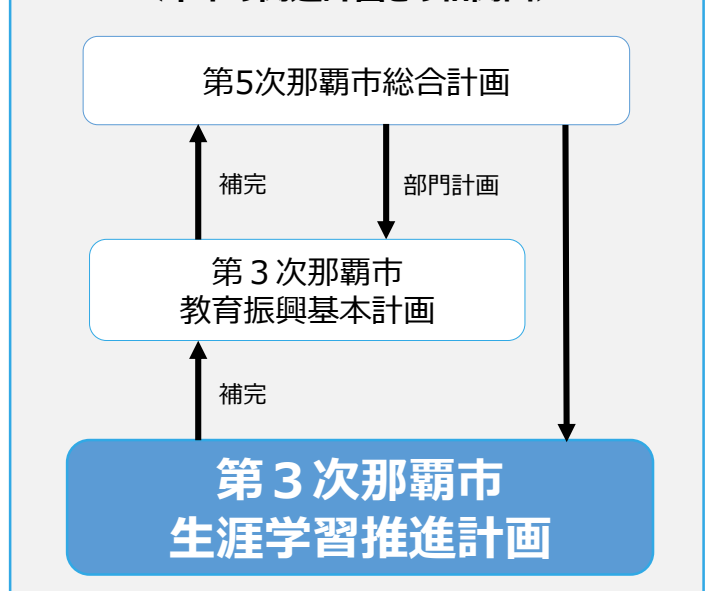
庁内での方向性を共有し、部署間の連携等により効果的な施策の展開を図ります

計画の位置づけ

「第3次那覇市生涯学習推進計画」は、第5次那覇市総合計画、第3次那覇市教育振興基本計画との整合性を図りながら、両計画を補完する計画として位置づけ、生涯学習の施策を推進します。

計画の期間は、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とします。

＜本市の関連計画との相関図＞



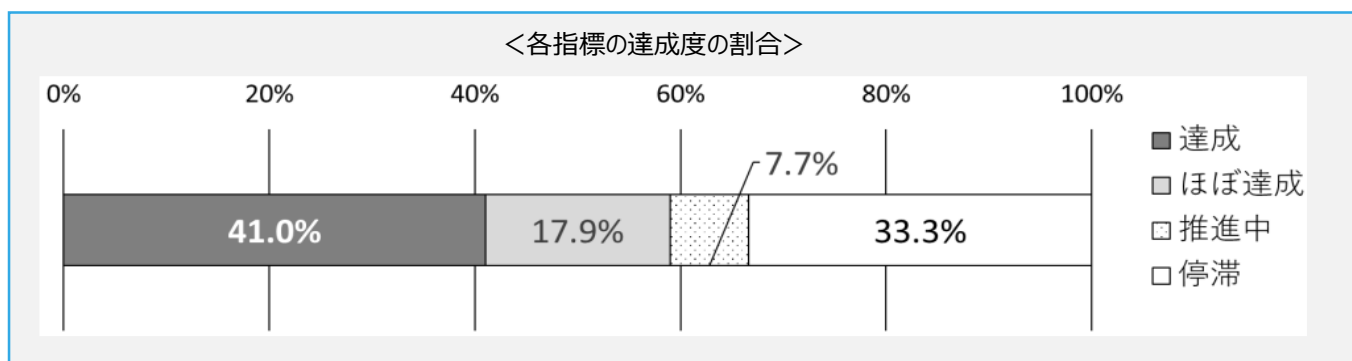
1.3.第2次那覇市生涯学習推進計画の評価

P.39-40 「第2次那覇市生涯学習推進計画 評価一覧」を参照

評価の総括

第2次那覇市生涯学習推進計画の評価は、全39指標中、「達成」「ほぼ達成」を合わせると23 指標（約59.0%）であり、「推進中」も合わせると26 指標（約66.7%）となっています。

柱ごとの評価をみると、『1 協働による生涯学習のまちづくり』は「ほぼ達成」、『2「学びと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～』は「推進中」、『3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり』は「ほぼ達成」となっています。3つの柱のうち、2つの柱の評価が「ほぼ達成」であり、各指標の評価結果も鑑み、本計画は“概ね良好に推移している”と総括します。



評価からの考察

各指標をみると、柱1-方針(1)-方策②地域生活の課題に関する学習プログラムの充実において、9指標のうち6指標が「達成」している。また、柱3-方針(1)-方策②歴史・文化資源等を生かした事業の充実において、5指標のうち3指標が「達成」している。事業やプログラムの充実については、関連各課にて概ね充実したプログラムを提供している様子が伺えます。

柱2-方針(2)をみると、方策①家庭教育力の充実では4指標中3指標、方策②地域教育力の充実では3指標中2指標において、いずれも実績値が現状値を下回っており、方針の評価は「推進中」となっています。コロナ禍の影響で、回復が困難である指標もみられ、with コロナ・after コロナへの対応についてどのように取り組むか、今後の課題のひとつであると考えられます。また、同方針の「停滞」している指標においては、担当課より、課題として「事業の継続的な周知」「事業に参加しやすい環境づくり」「事業実施のための人材確保」などが挙げられています。家庭教育力および地域教育力の充実においては、多様化する家庭・地域の状況について理解を深めるとともに、ニーズに沿った周知や事業内容、環境づくりが求められ、そのための工夫や関係者等との連携が必要です。

人口減少時代において、また、コロナ禍の影響による社会状況の大きな変化に伴い、生涯学習、コミュニティ、多様な主体の「協働」や「まちづくり」のあり方等も変化しています。

第3次那覇市生涯学習推進計画の策定においては、時代に適応した新たな視点を反映し、内容等について検討する必要があります。

第2章 生涯学習の現状と課題

2.1.生涯学習について国、県の動向

国の動向

令和5年6月に「第4期教育振興基本計画」が閣議決定され、コンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、今後の教育政策に関する5つの基本的な方針が示されました。

《今後の教育政策に関する5つの基本的な方針》

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

沖縄県の動向

令和5年3月に「第四次沖縄県生涯学習推進計画」が策定され、基本目標に「持続可能な生涯学習社会の実現を目指して」が掲げられました。また、生涯学習の推進のために、4つの方向性が示されました。

《推進の方向性》

- ①新しい時代の生涯学習社会の構築
- ②生涯学習の現状の調査・分析
- ③総合的な教育施策としての生涯学習の推進
- ④市町村及び関係機関との連携・協働による生涯学習の推進

2.2.那覇市における生涯学習の動向と課題

(1) 那覇市の動向

令和5年10月に、「第5次那覇市総合計画」を改訂し、「まちづくりを支える新たな架け橋」として、「デジタル社会の実現(DX)」、「持続可能な社会の実現(SDGs)」、「生きがいのある社会の実現(Well-being)」の3つを追加しました。

めざすまちの姿の一つに、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」が掲げられています。

「第5次那覇市総合計画」の部門計画として、令和3年3月に、「第3次那覇市教育振興基本計画」を策定し、政策の一つに「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」が掲げられ、施策として「どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる」、「どこでも誰でも生涯スポーツができるまちをつくる」、「学校が学びや育ちの拠点となるまちをつくる」ことが示されました。

「那覇市総合計画」、「那覇市教育振興基本計画」を補完する計画として、平成30年3月に、「第2次那覇市生涯学習推進計画」を策定し、生涯学習推進の三つの柱として、「協働による生涯学習のまちづくり」、「『まなびと実践』によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～」、「県都『なは』の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり」を掲げ、推進してきました。

(2) 那覇市の課題（現状を踏まえて）

令和6年度に実施した市民アンケート調査から、8割以上の市民が、直近1年間で生涯学習を行っており、学びを通して「人や地域社会とのつながり」が育まれ、「生活が改善された」、「人生や生活をより豊かにしている」等の様子が伺えます。また、学ぶ手段として、インターネット（オンライン学習を含む）の活用が顕著となっています。

一方で、「生涯学習を行っていない理由」として、主に「時間」、「費用」、「場所」のほか、「情報」や「学びきっかけ」の不足などが挙げられており、第2次那覇市生涯学習推進計画の評価からの考察（第1章 P.4）にも掲げた、学習情報の提供や周知方法の工夫・改善についても引き続き推進する必要があります。

また、多様な市民が気軽に学ぶ活動に参加するために、デジタル技術等を活用した「時間、費用、場所の制約の緩和」、学びを継続し実践するための「人（仲間）や地域との交流やつながりづくり」等も課題として示されています。国や県の動向及び本市の実情等も踏まえ、本市においても、生涯学習の従来の役割に加え、地域特性を生かした、以下の課題への対応が、より重要であると考えられます。

➤ ウェルビーイングの実現

「個人」の生涯にわたる自己実現を図る学習や、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」による、市民の生きがいや、幸福感等の向上に資する取組を実践します。

➤ 社会的包摂の実現

貧困の状況にある子供、障がい者、高齢者、孤独・孤立の状態にある者、外国人、性的少数者などの多様な学習ニーズに対応し、誰一人として取り残すことなく、分野横断的な学習機会を提供します。

➤ デジタル社会に対応

デジタル技術等の積極的な活用による学習機会の充実を推進する一方で、デジタルデバイド解消を含め、デジタルによる格差や分断のないデジタル化を実現するための、市民のリテラシー向上を目指します。

➤ 地域コミュニティの基盤形成

地域における「学び」を通じて、人と人とのつながり・絆を深め地域コミュニティの基盤を安定させます。

第3章 生涯学習の推進にあたっての基本理念

3.1.基本理念と基本方針

『基本理念』は、第5次那覇市総合計画のめざすまちの姿の一つである「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」を引き続き継承し、同計画の改訂時に加えた、「未来への視点」や、それを補完する「まちづくりを支える新たな架け橋(DX,SDGs,Well-being)」の要素を盛り込みながら、『基本方針（柱）』とそれに紐づく推進項目及び個別政策を体系的に整理します。

基本理念

「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」

未来への視点

「つながる力」を広げる視点,「稼ぐ力」を高める視点,「ひきつける力」が輝く視点

新たな架け橋

デジタル社会（DX）、持続可能な社会（SDGs）、生きがいのある社会（Well-being）の実現

（基本方針：柱）

協働による生涯学習のまちづくり

「まなびと実践」によるコミュニティづくり
～主として学校区域を拠点として～

県都「なは」の歴史・文化・地域特性
を生かしたまちづくり

（推進項目及び個別施策）

【推進項目】



（個別施策）

【推進項目】



（個別施策）

【推進項目】



（個別施策）

第4章 施策体系

4.1.第3次那覇市生涯学習推進計画の体系

基本理念のもとに、基本方針である柱を3つ掲げ、各基本方針（柱）ごとに設定した6つの『推進項目』と9つの『個別施策』を体系的かつ横断的に推進します。

基本理念	基本方針：柱	推進項目	個別施策
「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」	協働による生涯学習のまちづくり	学習機会の充実	学習情報提供・相談、プログラムの充実
		人材育成	市民・団体・職員等の育成支援
		多様な連携	NPO、大学、企業等との連携
	「まなびと実践」による コミュニティづくり ～主として学校区域を拠点として～	学校区域を 拠点とした コミュニティづくり	総合的な学校開放の推進
			新たな地域自治の仕組みづくり
		学校、家庭、 地域の教育力の充実	学校、家庭、地域の連携・協働の推進
	県都「なは」の歴史・ 文化・地域特性を 生かしたまちづくり	歴史・文化・地域資源 等の活用	歴史・文化・地域資源の維持、継承
			地域への誇りや愛着等の醸成
			豊かさや幸福感等への理解

基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり

「誰一人取り残さない」観点から、多様な市民の、生涯学習に対する広範なニーズに対応するために、市民一人ひとりが、人生のあらゆる段階や場面において、自分に適した手段・方法を選び、主体的に学習に取り組めるよう、NPO、企業、地域団体等と行政が、それぞれの特性を生かしつつ相互に連携し、協働しながら生涯学習のまちづくりを進めます。また、複雑化・多様化する社会を担う人材等の育成にも取り組みます。

推進項目（1）学習機会の充実

生涯学習に関する情報提供及び発信を強化するとともに、誰もが気軽に相談できる体制を強化し、多様な市民一人ひとりの生涯学習の機会の充実を図ります。

個別施策① 学習情報提供・相談、プログラムの充実

「人生100年時代」のあらゆるライフステージにおける、生涯学習関連の情報提供や相談体制を強化しながら、誰もが生涯学習活動に取り組めるよう、デジタル技術等も活用した多様なプログラムの充実を図ります。

また、「障がい者」「外国人」等をはじめとする多様な市民の生涯学習など、顕在的・潜在的ニーズに対応するための取組を推進します。

<関連する主な取り組み>

	事業名	事業概要	所管
1	那覇市公民館講座・学級事業	地域生活の課題に関する講座・学級（市民講座・成人講座・高齢者学級・少年教室・青年講座・親子ふれあい学級・家庭教育学級）の実施地域生活の課題に関する講座・学級を実施し、学習機会の充実、市民間交流を図り、市民の知識及び技能の向上、地域活動への関心を高めます。	公民館
2	読書バリアフリーの推進	図書館利用の障壁を取り除き、だれでも利用できる施設にします。具体的には、障がいや高齢等何らかの理由により本を読むことが困難な方も読書ができるように、デージー図書、大活字本、朗読CD等の資料を提供します。また、来館困難者に対し、本の宅配サービスを実施します。さらに、外国にルーツを持つ方などへの対応として、やさしい日本語表記による利用案内を作成します。	図書館
3	レファレンス（調査相談）サービス	利用者の求めに応じて、図書館職員はヒアリングを行い、多様な検索ツールを駆使しながら利用者が探している情報を的確に提供します。	図書館
4	デジタルを使いこなすスキルの習得	民間事業者と連携したスマホ・タブレット等の利用方法の習得機会を提供し、デジタルに不慣れな市民が抱える不安を解消し、市民のデジタルリテラシーの向上を図ります。	企画調整課
5	那覇市生涯学習情報提供システム（あけもどろネット）、生涯学習メニューブック	本市の各部署、関係機関で実施されている学習講座・イベントなどの情報をホームページや冊子等で提供し、生涯学習の機会の充実を図ります。	生涯学習課

第4章 施策体系

	事業名	事業概要	所管
6	那覇市主催スポーツ・レクリエーション大会関連事業	地域スポーツ教室・ウォーキング講座・ウォーキング大会を開催し、地域住民の生涯スポーツ振興や地域コミュニティづくりの促進を図ります。	市民スポーツ課
7	那覇市福祉のまちづくり推進事業	心のバリアフリー等の推進のため、福祉のまちづくり推進員の設置、小学生対象のセミナー、障がい当事者講話による普及啓発を図ります。	福祉政策課
8	芸術・文化講座開催等事業	美術活動を通じて障がい者の社会参加の機会を拡大するとともに、障がい者に対する市民の理解や認識を深めることを目的に「那覇市障がい者美術展」を開催します。	障がい福祉課
9	理解促進研修・啓発事業	障がい者等や障がい特性等に関する地域住民の理解を深めるための、又は「心のバリアフリー」の推進を図るための研修及び啓発活動を実施することにより、障がい者等が日常生活及び社会生活を営む上で生じる「社会的障壁」の除去及び共生社会の実現に向けて取り組みます。	障がい福祉課
10	「思春期の心と体」のための意識啓発事業	若年層へのあらゆる暴力の根絶を図るための意識啓発や自尊心・自己肯定感を高める教育として、思春期の子どもたちの「人間関係づくりを考える」プログラムを市内公立中学全校にて実施し、いじめ防止やデートＤＶ防止、将来のＤＶ防止へ繋がります。	平和交流・男女参画課
11	交通に対する意識改革	クルマに頼り過ぎない暮らしの推進を図るため、環境や交通に関する教育やモビリティマネジメント(MM)施策の取組みを推進します。	都市計画課
12	都市計画に関するまちづくり活動支援	都市計画マスタープランの分野別まちづくり方針及び地域まちづくり方針を踏まえ、都市計画に関するまちづくり活動のためのアドバイザー派遣や講座開催等により、市民と行政の協働による地区のまちづくりを推進します。	都市計画課
13	口腔保健推進事業	市民の口腔の健康保持増進を図るため、むし歯予防や歯周病予防、食育の推進等を行い、歯科疾患の予防及び口腔機能の維持向上に関する取組を行います。	健康増進課
14	発達支援保育巡回相談事業	発達支援保育を実施している保育園・こども園の職員およびその対象となる保護者に対し、巡回による相談や研修会などの支援を行います。	こども教育保育課
15	那覇市上下水道局水道ポスターコンクール	毎年6月1日から7日に実施される国交省及び環境省の主唱する水道週間にあわせて、小中学生のみなさんに、水道に対する理解と親しみをもっていただくことを目的に開催します（水道週間イベント時に表彰式を行います）。	上下水道局総務課
16	那覇市上下水道モニター事業	モニターを介して、那覇市水道事業及び下水道事業の全般にわたって、需要者の意見及び提案等を把握し、あわせて事業運営の理解等を促すことにより、サービスの向上と効率的かつ効果的な事業運営を推進することを目的として毎年約15名のモニターを募ります。	上下水道局総務課
17	新都心公園等運営管理事業	新都心公園内那覇市緑化センターにおいて、緑化意識及び緑化技術向上の普及のための講習会、講演会、展示会を開催します。	公園管理課

生涯学習お役立ち情報

<オンライン学習ツール>

- ・デジタル公民館®
<https://www.kk2.ne.jp/kk2/seminar/index.html/>
- ・JMOOC (ジェイ・ムーク)
<https://www.jmooc.jp/>
- ・地方創生カレッジ
<https://chihouseisei-college.jp/>
- ・gacco (ガッコ)
<https://gacco.org/>
- ・Schoo (スクー)
<https://schoo.jp/>

<那覇市生涯学習情報提供システム>

(あけもどろネット)



コラム

～ 「生涯学習」は、グローバル化と多文化共生に対する理解の一助となる ～

本市は多くの観光客にとって魅力的な目的地にもなっており、令和5年度の外国人観光客は約93万人も訪れております。一方、在住外国人も年々増加しており、約7,700名以上（令和6年10月現在）が生活しております。国籍別にみると、ネパール、中国、ベトナム国籍の方が多く住んでいます。

グローバル化が急速に進行し、多様な文化や価値観が交錯する中で、異なる背景を持つ人々との共生が求められています。

このような社会に対応するために、「生涯学習」は、グローバル化した現代社会において不可欠なスキルと知識を身につける一助として期待されています。2つの社会教育施設での関連事例を紹介します。

那覇市上間にある那覇市人材育成支援センター まーいまいNahaは、沖縄振興や観光振興などに役立つ人材の育成を図るとともに、市民の学習・交流活動を支援するため、令和2年4月に設立された施設です。外国人観光客の満足度向上に向け、「うとういむち（おもてなし）」の出来る観光関連産業従事者を育成するとともに、市民が外国人観光客に気軽に対応できる風土の醸成及び異文化理解を図るため、英語・中国語・韓国語によるうとういむち講座や交流会、大学教授による異文化講座（沖縄大学連携事業）などを実施しております。



次に、那覇市若狭公民館での取り組みを紹介します。2015年頃よりネパール人などの学生をはじめとする外国人の居住者が若狭地域で増え、彼らのゴミ出しや歩道の自転車通行など、地域住民側が課題感を感じ始めたことをきっかけに、外国人と地域住民同士が交流できるよう、互いの文化について理解をはかる場づくりに積極的に取り組んでいます。2018年には留学生や地域住民からボランティアを募り、ネパールのお正月を祝う「ネパール・ニューイヤーパーティ」を在住ネパール人との交流事業を開始し、2023年には居場所事業「多文化カフェ・わかさ」を実施し、日本にきてまだ間もない中国人親子や複言語教育の普及活動をしている欧州出身の学者、沖縄にルーツがあり日本語を学びに来ているアメリカ人等に加え、地域の中学生・高校生も混ざるなど、外国人と地域住民同士が交流する場をつくり続けています。また、若狭地域を中心に活動する市民活動団体のチームAMMA（なは市民協働大学院2023生）も、定期的な朝食会を通し、ネパールの学生たちが防災について学ぶ機会や、地域住民との交流の機会を創出しております。



令和6年12月に実施された当館での朝食会イベントでは、在留外国人の方々も参加し、地域住民と交流している様子が見られ、若狭地域における継続した多文化共生活動の成果の一端が伺えたように思います。

これらのように、多文化理解を促進するための様々なプログラムや在住外国人の居場所は、異文化への理解を促し、あらゆる属性や背景に関わらず、多様な人が集い、学びあえる場としてますます重要となるでしょう。

～ 誰もが生きやすい共生社会の実現に向けて ～

日本は平成26年「障害者権利条約」を批准し、第24条に「生涯学習の機会の確保」に関する文言が明記されました。平成28年には、「障害者差別解消法」が施行し、国や自治体に合理的配慮を義務化しました。

国が実施した生涯学習に関する調査では、平成30年度の学校卒業後の障害者の学習活動に関する障害者本人の意識調査において、「一緒に学習する友人、仲間がいない」71.7%、「学ぼうとする障害者に対する社会の理解がない」66.3%、「知りたいことを学ぶための場や学習プログラムが身近にない」67.2%という結果が報告されました。また、令和4年度「障害者の生涯学習活動に関する実態調査」では、生涯学習の取組状況について、取り組んでいない割合が79.3%となり、取り組んでいない理由は「どのような学習があるのか、知らない」が最も多くなっています。

国は、障害者の生涯学習の推進方策の方向性として、「誰もが、障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる共生社会の実現」、「障害者の主体的な学びの重視、個性や得意分野を生かした社会参加の実現」を示しており、国、地方公共団体、特別支援学校、大学、民間団体等の実施主体が役割分担し、多様な学びの場づくりの推進、教育、福祉、労働等の分野との取組の連携強化が求められています。

以下の表は、文部科学省による「障害者の生涯学習の推進を担う人材育成の在り方検討委員会」において、令和4年3月に公表された「障害者の生涯学習に向けて関係機関に期待される取り組み」の一部を抜粋した表です。

障がい者の生涯学習の目的や内容は、その実施主体ごとで目的や役割が異なります。それぞれの実施主体において、障がい者の生涯学習を位置づけて推進していくためのノウハウや経験を有する人材の育成、専門性等を理解した上で、新たな取組の開始や現在の取組を充実させていくことが重要です。



▲共生社会のマナビ
「障害者の生涯学習
支援入門ガイド・事例集」

出典 文部科学省

実施主体	想定される担い手	現状と課題	期待される取組
教育委員会	・社会教育主事等 ・社会教育・生涯学習担当者	・「障害者支援＝福祉分野の施策」という先入観 ・関係者等との連携不足	・教育振興基本計画等への障害者の生涯学習の位置づけ、職員研修等の企画・実施 ・福祉との連携、自立支援協議会等の参加
公民館 生涯学習センター	・公民館等職員 ・社会教育団体、サークル、地域住民	・障害者の学習支援の経験不足 ・取組の地域間格差	・既存事業での合理的配慮の実施や障害の有無にかかわらず共に学ぶ場の提供 ・誰もが参加できる団体・サークルの育成
図書館	・司書等、職員 ・ボランティア ・図書館協力者	・障害者が利用可能な書籍等の不足 ・読書環境の未整備	・各館の実情や各障害種の利用者ニーズ等に応じたサービスの提供体制の整備 ・社会教育・福祉部局と点字図書館との連携
特別支援学校等	・教職員 ・ボランティア ・教職員OBOG等	・学校卒業後の生涯学習の観点を踏まえた指導の視点の不足	・生涯学習の意欲向上に向けた取組 ・コミュニティ・スクール等の仕組みの活用 ・同窓会が生涯学習活動を担うことへの期待
大学等の 高等教育機関	・大学教職員 ・学生 ・社会連携担当	・オープンカレッジ、公開講座等の活動継続のための体制づくり	・オープンカレッジ、公開講座等の継続的な実施 ・履修証明を行うプログラムの実施等 ・教職員、学生などが関わるための取組
障害福祉 担当部局等	・障害福祉担当 ・自立支援協議会構成メンバー	・社会教育・生涯学習と福祉部局との連携や役割分担	・障害者計画等に生涯学習の位置付け ・自立支援協議会を通じた地域における生涯学習、余暇、レクリエーション等の活動の推進
社会福祉協議会	・ボランティアセンター職員 ・ボランティア、コーディネーター	・障害者の生涯学習活動におけるボランティアの不足 ・障害理解の福祉教育	・障害者の生涯学習を踏まえた、ボランティア体験活動や障害理解講座等の促進 ・ボランティアの育成、コーディネート
障害福祉サービス等を実施する社会福祉法人	・運営スタッフ等 ・ボランティア ・障害当事者	・学びの必要性を理解しつつも、ノウハウや地域資源の情報不足	・各施設、制度の趣旨を踏まえつつ、各障害者のニーズに応じた、成長できる学びの支援 ・生涯学習関係者との連携の促進
生涯学習事業に取り組むNPO等	・運営スタッフ ・ボランティア ・障害当事者	・柔軟性と機動力のある取組が可能 ・持続可能なしくみづくり	・障害者本人の多様な社会参加を促す学び ・組織や制度にとらわれない自由で柔軟な取組 ・障害者本人や家族等のニーズに寄り添う支援

基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり

推進項目（2） 人材育成

変化の激しい予測困難な時代を背景に、多様化かつ高度化する学習ニーズや、より一層複雑化する社会課題や地域課題等へ対応するため、リカレント教育やリスキリング等を含む市民の学習意欲を促進する役割を担い、学びを地域社会に還元する、社会の担い手を育成するための取組を推進します。

個別施策① 市民・団体・職員等の育成支援

時代に即した学習機会を提供しつつ、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える専門性などを備えた人材の育成を推進し、社会の担い手としての個人及びその集合体である組織や団体等の育成を支援します。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	小中学生キャリア教育支援	若年層の失業率、定着率の改善を目指し、早期からの職業意識の醸成、職業観やキャリアデザインの形成を図るため、職業人講話や企業体験等を実施します。	商工農水課
2	那覇市IT人材育成支援事業	次世代を担う市内の小中学生を対象にプログラミング講座等を通して、情報技術に関する興味を抱き、論理的思考を身につけ、かつ日常生活が情報技術を活用した産業で支えられていることに気付くことで、将来のキャリア形成への支援を行います。	商工農水課
3	なはし社会地域課題解決型起業支援事業	市内産業・経済のさらなる活性化を図ることを目的とし、市内の抱える社会課題、地域課題の解決を目的とした起業及び新規事業を行うものに対して、費用の一部を助成及び専門家等の派遣等を行い、スタートアップ企業等の創出及び成長の後押しを図ります。	商工農水課
4	高度IT人材育成研修等補助事業	情報通信関連の人材育成に関する経費の一部を補助することにより、人材育成の環境整備を進め、市内で働くIT関連従事者の技術向上や高度人材の創出を図ります。	商工農水課
5	なは市民協働大学院	地域及び新たなコミュニティの形態として、全市域に展開する「校区まちづくり協議会」などで中心となって活動することができる人材や自らの意見を発信し、市政に積極的に関わることができる人材の発掘・育成を推進します。	まちづくり協働推進課
6	なは市民活動支援事業	学識経験者などからなる「那覇市協働によるまちづくり推進審議会」が公開審査による助成団体の選定および助成金の交付をとおして、協働によるまちづくりを推進する市民団体の育成を図ります。	まちづくり協働推進課



◀小学生を対象とした職業体験プログラム
(小中学生キャリア教育支援)

小学生を対象としたプログラミング講座
(那覇市IT人材育成事業)



第4章 施策体系

	事業名	事業概要	所管
7	協働によるまちづくり推進事業	那覇市協働大使委嘱、那覇市協働によるまちづくり推進協議会への補助を行うとともに、協働によるまちづくり推進審議会を運営し、市民主体の協働によるまちづくりを推進します。	まちづくり協働推進課
8	防災講話や訓練等の実施	災害時に自助・共助による取り組みが機能し被害の拡大を防止することを目的とし、防災講話や避難訓練等を通して防災意識及び知識の向上を図り、地域住民等の災害対応力を高めます。	防災危機管理課
9	社会教育関係職員研修	那覇市の社会教育関係職員を対象に、社会教育主事講習を含む研修等の情報提供を行うとともに、職員の資質向上のための研修を実施します。	生涯学習課
10	給付型奨学金事業	成績優秀で修学する意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で大学等進学が困難な者に対して県内大学等への進学を支援し、本市における人材育成を促進することを目的に、入学及び修学に必要な奨学金を給付します。	生涯学習課
11	まーいまーいNaha人材育成外国語講座事業	外国人観光客の満足度向上に向け、「うとういむち（おもてなし）」の出来る観光関連産業従事者を育成するとともに、市民が外国人観光客に気軽に対応できる風土の醸成及び異文化理解を図るため、英語・中国語・韓国語によるうとういむち講座及び交流会を実施します。	生涯学習課
12	救命講座普及啓発推進事業	傷病者が発生した場合、現場におけるバイスタンダー（その場に居合わせた人）による応急手当が重要であることから、心肺蘇生法やA E Dの取扱い等の各種救命講習会を実施し、市民の救命に関する対応力を高めます。	消防局救急課
13	放課後児童支援員等資質向上研修事業	放課後児童支援員等の資質向上を図るため、放課後児童健全育成事業所の運営や子どもの育成支援に関する事項について、基礎的な知識や事例、技術等の共有を図ることを目的とした研修を県と連携して実施します。	こども政策課
14	保育士試験受験者支援事業	待機児童と保育士不足の解消を図る目的で、必要な保育士資格取得者数の拡大に向けた取組みとして、保育士試験対策講座を開催します。	こども政策課
15	食生活改善推進員養成・育成事業	地域において市民の健康づくり支援を担う、保健ボランティアの「食生活改善推進員」を養成、育成活動を行っている「那覇市食生活改善推進協議会」に対して補助金を交付し、活動を支援します。	健康増進課
16	認知症サポーターの養成講座	地域全体で認知症の人や家族を見守り、支えるための地域づくりを推進するため、認知症サポーターの養成講座を開催し、認知症に対する地域住民の理解を深め、多くのサポーターの養成、活動する機会の充実に図ります。	チャージんじゅう課



◀指導員による
応急手当講習会
(救命講座普及啓発推進事業)

高校生に対する認知症
を理解するための
カードを用いたワーク
(認知症サポーターの養成講座)



基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり

推進項目（3） 多様な連携

多様な市民一人ひとりの、あらゆる成長段階や場面における学習機会を途切れなく充足するため、多種多様なセクターの内外における連携を促進し、各セクターの特性や強みを最大限に発揮できるよう努めます。

個別施策① NPO、大学、企業等との連携

NPO、大学・専門学校、企業等をはじめとする、各セクターの有する専門性や資源等を有機的に連携しながら、協働による相乗効果を生み出すことで、学びの多様化や高度化、地域等と一体となった活動を推進します。

<関連する主な取り組み>

	事業名	事業概要	所管
1	なはSDGs推進事業 (多様なつながり地域づくり)	SDGs達成につながる多様なステークホルダーによる本市における協働の活動に対し、補助金を助成し、支援します。	まちづくり 協働推進課
2	那覇市人材データバンク事業	地域の課題解決につなげることを目的に、ボランティア人材とボランティアを求める団体についてリスト化を行い、相互に情報提供等を行いながら、マッチングを図ります。	まちづくり 協働推進課
3	那覇市地球温暖化対策協議会	地球温暖化防止に寄与することを目的として、市民、事業者及び行政機関等の協働により、那覇市域における総合的な地球温暖化対策の推進を図ります。	環境政策課



◀市文化財の
美化ボランティア
(那覇市人材データバンク事業)

県民環境フェアでの
エコドライブ体験会
(那覇市地球温暖化対策協議会)



基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり ～主として学校区域を拠点として～

市民一人ひとりの生活を支え、地域と人のつながりによる社会的包摂を実現するために、学校区域を拠点にして、地域住民の主体的な学びと、「学び」を通じた実践やつながりづくりを支援し、学校、家庭、地域社会が連携・協力する仕組みを築きます。

推進項目（1） 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

地域住民が学習活動を通じて絆を形成し、コミュニティづくりへの参画や生活課題等の解決を図っていくため、学校の施設・設備の地域住民への開放の推進や地域の人材活用の充実に努めます。住民自治の育成・発展及び協働によるまちづくりのさらなる推進を図るため、校区まちづくり協議会の設立など、新たな地域自治の仕組みづくりを進めます。

個別施策① 総合的な学校開放の推進

地域住民の身近な場所である学校施設を、地域の人々や団体等をつなぐ場、子育て・健康・福祉サービスを行う場等のコミュニティの拠点として位置づけ、学校施設の開放を推進します。

また、地域学校連携施設等における、施設利用の利便性向上を進め、地域住民の学びと実践の機会を充実させることで、地域コミュニティの基盤の強化を図ります。

<関連する主な取り組み>

	事業名	事業概要	所管
1	総合的な学校開放推進事業	小中学校の地域学校連携施設を地域住民の生涯学習の場および地域コミュニティ活動の場として、周知および利便性の向上に取り組みます。	生涯学習課
2	学校体育施設開放事業	小中学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で開放し、市民の体力向上と生涯スポーツの振興を図ります。	市民スポーツ課



◀那覇市銘苅小学校
地域学校連携施設
(総合的な学校開放推進事業)

那覇市開南小学校▶
体育館
(学校体育施設開放事業)



基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり ～主として学校区域を拠点として～

推進項目（1） 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

個別施策② 新たな地域自治の仕組みづくり

住民の主体的な参画による自治の育成・発展及び協働によるまちづくりのさらなる推進を図るため、校区まちづくり協議会の設立を進めます。学校区域を拠点に、地域住民の主体的な学びと、「学び」を通じた実践や交流の場を提供することにより、まちづくりと学びの効果的な連携を目指します。

<関連する主な取り組み>

	事業名	事業概要	所管
1	校区まちづくり協議会支援事業	小学校区内にある多くの団体・地域住民が参加して、心の通い合う人間関係を生み出し、活力に満ちた、人間性豊かな地域社会を築き、次世代にそれらを伝えていくための小学校区を単位とした新たなコミュニティを市内全域に展開するため、補助等を行います。	まちづくり協働推進課
2	総合的な学校開放推進事業（再掲）	小中学校の地域学校連携施設を地域住民の生涯学習の場および地域コミュニティ活動の場として、周知および利便性の向上に取り組みます。	生涯学習課



▲校区まち協意見交換会in那覇市役所
(校区まちづくり協議会支援事業)

校区まちづくり協議会は、校区内で活動する自治会、PT(C)A及び地域で活動する個人・企業・事業所等、地域の全ての方々と構成する団体で、それぞれの目的や活動を尊重し合い、緩やかに連携・協力しながら、合意形成を図ったうえで、地域の課題解決を図っていくことを目的として自主的に設立されています。2024年11月末現在、市内には18の小学校区のまちづくり協議会(準備会含む)があります。各校区では、多様な地域の特色を生かし「学習支援事業」や「美化活動」等を実施しています。

基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり ～主として学校区域を拠点として～

推進項目（2） 学校、家庭、地域の教育力の充実

学校を取り巻く問題の複雑化・困難化、家庭環境の多様化、変化の激しい地域社会に対応しながら、社会的包摂を推進する観点から、学校、家庭、地域の教育力の向上を推進するため、子供たちの地域社会への参画や親、大人の学びの支援を含む、地域連携事業、子育て支援事業等に努め、地域力を高めていきます。

個別施策① 学校、家庭、地域の連携・協働の推進

学校、家庭、地域が連携し多様な担い手が協働することで、「誰一人取り残さない」まなびと実践の場の充実を図り、学校、家庭、地域の課題の解決に資する、地域力を促進する取組を展開します。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	地域学校協働活動推進事業 (学校支援等)	幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子ども達の学びや成長を支えるため、地域と学校等が連携・協働して行う校内外における様々な活動（地域学校協働活動）を推進します。また、その活動を推進するため、地域と学校等をつなぐ「地域学校協働活動推進員」を配置し、安定的かつ継続的に協働活動ができるよう体制づくりを行います。	生涯学習課
2	地域学校協働活動推進事業 (放課後子ども教室)	放課後に学校施設等を活用し、子どもたちに対して、学習支援やスポーツ、伝統文化活動、地域住民との交流活動など、多様な学びの機会を提供することで、安全・安心な放課後の居場所づくりおよび子どもたちの健全育成を図ります。	生涯学習課
3	ブックスタート事業	庁内外と連携し、絵本をとおして親子のふれあいを高めることにより、親がゆとりをもち安心して子育てができ、赤ちゃんの心と体が豊かに育つことを支援します。	生涯学習課
4	那覇市学校運営協議会 (コミュニティ・スクール)	学校運営への支援等を推進するために、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校と保護者・地域住民等が育てたい子ども像を共有し、共通の課題について協議する機関としての学校運営協議会を設置し、未来の創り手となる児童生徒を育成します。	学校教育課
5	那覇市公民館地域連携・ 世代間交流事業	地域で全ての世代が参加できる事業を実施し、各地域及び世代間の交流を図り、その交流を活かした連携・協働から、まちづくりへの関心を高めます。	公民館
6	支援対象児童等 見守り強化事業	民間団体等が要保護児童対策地域協議会の支援対象児童等として、登録されている子どもやヤングケアラーが疑われる世帯を地域で活動している団体等が定期的に訪問し、地域のネットワーク等を活用しながら生活状況の把握や食事の提供、学習・生活支援等を行い、子どもの見守り体制の強化を図ります。	こどもえがお 相談課
7	子育て世帯訪問 支援事業	家事・育児等に対して不安や負担を抱え、地域で孤立しがちな子育て家庭、妊娠婦、ヤングケアラー等がいる家庭の居宅を訪問支援員が訪問し、家庭が抱える不安や悩みを傾聴するとともに、家事・育児等の支援を実施することにより、家庭や養育環境を整え、虐待リスク等の高まりを未然に防ぐとともに地域で安心して養育できる環境を整えていきます。	こどもえがお 相談課
8	子育て支援事業	こども園、保育所等においては、地域における子育て家庭の支援について、子育て応援DAYを実施します。また、地域子育て支援センターや、つどいの広場においては、子育て世帯のニーズに合わせた内容の充実を図り、利用者支援の拡充を進めます。	こども教育 保育課
9	校区まちづくり協議会 支援事業（再掲）	小学校区内にある多くの団体・地域住民が参加して、心の通い合う人間関係を生み出し、活力に満ちた、人間性豊かな地域社会を築き、次世代にそれらを伝えていくための小学校区を単位とした新たなコミュニティを市内全域に展開するため、補助等を行います。	まちづくり 協働推進課

基本方針：柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

ウェルビーイングの実現には、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることが求められています。地域の独自の歴史や文化、自然環境などをはじめとした地域特性を生かし、生涯学習を通して、個人の成長のみならず、地域社会の発展やウェルビーイングに資するまちづくりを推進します。

推進項目（1）歴史・文化・地域資源等の活用

那覇市は、政治・経済の中心地として、独自の歴史・文化を背景に、多くの国・県・市指定の文化財が存在します。さらに、伝統芸能や祭り行事も盛んであり、これらをはじめとする豊かな地域資源を生かしていくため、伝統文化の保存・活用及び新たな文化活動を創出し、地域への誇りや愛着等を育みます。また、豊かさや幸福感等を感じられる持続可能な住みよい暮らしを実現するため、地域社会の発展と環境の保全や自然などの地域資源との調和も図ります。

個別施策① 歴史・文化・地域資源の維持、継承

那覇市内各地の歴史や文化をはじめとする地域の特性等に関する学びの機会を充実させ、自然環境を含む地域資源の維持、継承を促進することで、各地域の特性を生かした持続可能なまちづくりを進めます。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	文化財関連施設運営事業	識名園、玉陵、那覇市立壺屋焼物博物館、那覇市歴史博物館等において、那覇市の歴史や文化を学ぶ機会を提供します。	文化財課
2	歴史・文化に関する講座・解説会などの実施	歴史・文化に関する講座等を開催することで、地域資源に対する理解を深め、保全・継承を図ります。	文化財課
3	那覇爬龍船振興会補助金	那覇ハーリーにおいて実施される爬龍船競漕を本市の伝統行事として保存・継承しながら、観光資源として活用し、観光振興・観光誘客を図ります。	観光課
4	温暖化対策啓発事業	本市では、2024年1月にゼロカーボンシティ宣言を行い、2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロを目指しています。脱炭素社会の実現に向けて、地球温暖化対策啓発活動として、環境講座を実施します。	環境政策課
5	環境啓発委託事業	環境学習等とおして身近な那覇市の自然に触れることで、その大切さを認識してもらうための事業、出前講座及び子どもたちの自主的な環境活動のサポートを行うこどもエコクラブ活性化事業を実施します。出前講座は学校・自治会・児童クラブ等を中心とした団体からの講座依頼に対し講師派遣を行います。	環境保全課
6	自然観察会の実施	市民が自然観察会や環境学習をおして、市内の身近な自然環境の現状を知り、その大切さを認識してもらうとともに自然環境保全の重要性を理解してもらうことを目的とした自然観察会を実施します。	環境保全課

基本方針：柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

推進項目（1）歴史・文化・地域資源等の活用

個別施策② 地域への誇りや愛着等の醸成

地域の独自の歴史や文化、自然環境などを生かした、市民の体験や発表、創作の機会等を支援し、市民の地域に対する誇りや愛着等を醸成するための取組の充実を図ります。また、沖縄の伝統文化の基層であるうちなーぐちの普及啓発にも取り組みます。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	青少年旗頭事業	市内小中学生を対象に、本市の伝統文化である旗頭を用いた活動に取り組んでもらい、地域の方々との相互交流や参加する子ども同士の友情を深めながら、子どもたちの「居場所づくり」を進めます。活動の成果発表の場として「やる気・元気 旗頭フェスタinなは」を開催します。	生涯学習課
2	観光まちづくり整備補助金	那覇市観光協会の実施する「那覇まちま〜い」に係る経費の一部を支援します。「那覇まちま〜い」は、地元ガイドと共に地域の資源を見てまわる「まち歩き」を行い、ガイドとのふれあいを通し、まちの歴史や文化を学ぶことで、まちへの愛着が深まる機会の充実につなげます。	観光課
3	頑張るマチグー支援事業 那覇市地域商店街等支援事業	那覇市の中心商店街その他の商店街の活性化に向けた事業を行う者の創意工夫による積極的な取り組みを支援します。	なはまち振興課
4	うちなーぐち普及継承事業	うちなーぐちの保存・普及・継承を目的に市民参加型の自主事業を実施し、うちなーぐちの魅力と価値を再認識することで、普及啓発と市民文化活動の活性化を図ります。	文化振興課
5	博物館企画展・特別展の開催	那覇市歴史博物館においては、「都市の文化」を紹介する常設展示、国宝の特別展示以外に時期等を考慮したテーマを設定し、テーマに沿った「那覇」「沖縄」に関連する歴史資料を展示する企画展を開催します。壺屋焼物博物館においては、「壺屋焼」をはじめとする沖縄の焼物の歴史や文化など焼物を中心とした企画展や特別展を開催します。	文化財課

個別施策③ 豊かさや幸福感等への理解

歴史・文化、自然等をはじめとする地域資源などについて知るだけでなく、学びを通して、地域や住民の交流を促進し、地域の特性を維持し発展することが、個人及び地域社会の豊かさや幸福感につながることを認識できるよう、生涯学習の普及啓発に努めます。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	SDGs推進事業	SDGsについての理解を向上させるため、SDGsの専門家による職員研修を行います。また、市民・市内企業におけるSDGs推進に対する機運の醸成を図ることを目的に、SDGsをテーマにしたシンポジウムを開催します（シンポジウム開催年度：令和7年度）。	企画調整課
2	なはーと文化芸術事業	「那覇文化芸術劇場なはーと」において、より積極的に文化芸術を発信するため、「創造・発信事業」、「鑑賞事業」、「普及・人材育成及び交流事業」の3つに類型化し、効果的な事業を展開します。	文化振興課

＜施策体系一覧＞ ☆の取り組みは、第5次那覇市総合計画の改訂などを踏まえて掲載。

基本方針	推進項目	関連する主な取り組み	所管
協働による生涯学習のまちづくり	学習機会の充実	学習情報提供・相談、プログラムの充実	
		1 那覇市公民館講座・学級事業	公民館
		2 読書バリアフリーの推進	図書館
		3 レファレンス（調査相談）サービス	図書館
		4 デジタルを使いこなすスキルの習得 ☆	企画調整課
		5 那覇市生涯学習情報提供システム（あけもどろネット）、生涯学習メニューブック	生涯学習課
		6 那覇市主催スポーツ・レクリエーション大会関連事業	市民スポーツ課
		7 那覇市福祉のまちづくり推進事業	福祉政策課
		8 芸術・文化講座開催等事業	障がい福祉課
		9 理解促進研修・啓発事業	障がい福祉課
		10 「思春期の心と体」のための意識啓発事業	平和交流・男女参画課
		11 交通に対する意識改革	都市計画課
		12 都市計画に関するまちづくり活動支援	都市計画課
		13 口腔保健推進事業	健康増進課
		14 発達支援保育巡回相談事業	こども教育保育課
		15 那覇市上下水道局水道ポスターコンクール	上下水道局総務課
		16 那覇市上下水道モニター事業	上下水道局総務課
		17 新都心公園等運営管理事業	公園管理課
	人材育成	市民・団体・職員等の育成支援	
		1 小中学生キャリア教育支援 ☆	商工農水課
		2 那覇市IT人材育成支援事業 ☆	商工農水課
		3 なはし社会地域課題解決型起業支援事業 ☆	商工農水課
		4 高度IT人材育成研修等補助事業 ☆	商工農水課
		5 なは市民協働大学院	まちづくり協働推進課
		6 なは市民活動支援事業	まちづくり協働推進課
		7 協働によるまちづくり推進事業	まちづくり協働推進課
		8 防災講話や訓練等の実施	防災危機管理課
		9 社会教育関係職員研修	生涯学習課
		10 給付型奨学金事業	生涯学習課
		11 まーいまーいNaha人材育成外国語講座事業 ☆	生涯学習課
		12 救命講座普及啓発推進事業	消防局救急課
		13 放課後児童支援員等資質向上研修事業	こども政策課
		14 保育士試験受験者支援事業	こども政策課
		15 食生活改善推進員養成・育成事業	健康増進課
		16 認知症サポーターの養成講座	チャージンじゅう課
	多様な連携	NPO、大学、企業等との連携	
		1 なはSDGS推進事業（多様なつながり地域づくり） ☆	まちづくり協働推進課
		2 那覇市人材データバンク事業	まちづくり協働推進課
		3 那覇市地球温暖化対策協議会	環境政策課

第4章 施策体系

＜施策体系一覧＞ ☆の取り組みは、第5次那覇市総合計画の改訂などを踏まえて掲載。

基本方針	推進項目	関連する主な取り組み	所管
「まなびと実践」による「コミュニティづくり」	学校区域を拠点としたコミュニティづくり	総合的な学校開放の推進	
		1 総合的な学校開放推進事業	生涯学習課
		2 学校体育施設開放事業	市民スポーツ課
		新たな地域自治の仕組みづくり	
		1 校区まちづくり協議会支援事業	まちづくり協働推進課
	学校、家庭、地域の教育力の充実	2 総合的な学校開放推進事業（再掲）	生涯学習課
		学校・家庭・地域の連携・協働の推進	
		1 地域学校協働活動推進事業（学校支援等） ☆	生涯学習課
		2 地域学校協働活動推進事業（放課後子ども教室）	生涯学習課
		3 ブックスタート事業	生涯学習課
		4 那覇市学校運営協議会（コミュニティ・スクール） ☆	学校教育課
		5 那覇市公民館地域連携・世代間交流事業 ☆	公民館
		6 支援対象児童等見守り強化事業	こどもえがお相談課
		7 子育て世帯訪問支援事業	こどもえがお相談課
		8 子育て支援事業	こども教育保育課
		9 校区まちづくり協議会支援事業（再掲）	まちづくり協働推進課
県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり	歴史・文化・地域資源等の活用	歴史・文化・地域資源の維持、継承	
		1 文化財関連施設運営事業	文化財課
		2 歴史・文化に関する講座・解説会などの実施	文化財課
		3 那覇爬龍船振興会補助金	観光課
		4 温暖化対策啓発事業 ☆	環境政策課
		5 環境啓発委託事業	環境保全課
		6 自然観察会実施	環境保全課
		地域への誇りや愛着等の醸成	
		1 青少年旗頭事業	生涯学習課
		2 観光まちづくり整備補助金	観光課
		3 頑張るマチグー支援事業	なはまち振興課
		那覇市地域商店街等支援事業	
		4 うちなーぐち普及継承事業	文化振興課
		5 博物館企画展・特別展の開催	文化財課
		豊かさや幸福感等への理解	
		1 SDGs推進事業 ☆	企画調整課
		2 なはーと文化芸術事業	文化振興課

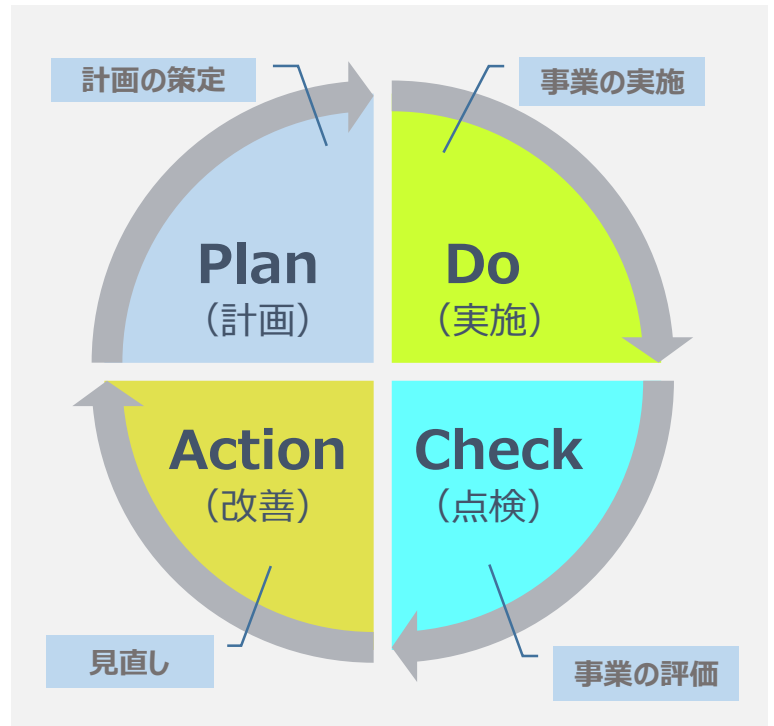
第5章 計画推進のしくみ

5.1.施策・事業の評価と活用

(1) 進捗管理について

計画の施策・事業に係る進捗管理の手法は、各所管課にて、右記のPDCAサイクルを活用して毎年度実施します。

なお、社会情勢や生涯学習を取り巻く状況の変化等に、柔軟に対応できるよう、必要に応じた計画及び取組の見直しを行えるものとします。



(2) 計画の評価について

本計画の評価は、内部評価及び那覇市生涯学習推進協議会の外部委員の意見に加え、市民意識調査やデジタル庁の「地域幸福度（Well-Being）指標」等を活用したアウトカム評価を行います。

評価の実施結果については、市ホームページ等を通して市民へ公表します。

評価結果は、次期計画策定のあり方のほか、各関連施策の推進または維持・改善等の見直しに活かします。

①柱ごとの評価:アウトカムの推移等（市民意識調査及び地域幸福度(Well-Being)指標等）

②各施策の評価:アウトプットの推移等



(3) 基本方針（柱）ごとの評価について

各基本方針（柱）ごとの評価については、アウトカム評価の観点も盛り込み、以下の指標（市民意識調査及び地域幸福度(Well-Being)指標）の推移等を踏まえながら、本計画の総体的な評価を行います。

基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり	R5年度 (現状値)	R7年度	R9年度	R11年度
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (市民意識調査：「満足」「まあ満足」の割合の合計)	50.2%	52%	54%	56%
参考指標	出典			
人口あたり生涯学習講座数	地域幸福度 (Well-Being)指標			
人口あたり生涯学習講座受講者数				
学べる機会				
教育機会の豊かさ				
多様性と寛容性				
多様性政策指数				

基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり	R5年度 (現状値)	R7年度	R9年度	R11年度
あなたのご家庭は、自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加していますか。(市民意識調査：「参加している」の割合)	20.6%	23%	25%	27%
参考指標	出典			
地域とのつながり	地域幸福度 (Well-Being)指標			
コミュニティ活動盛ん				

基本方針：柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり	R5年度 (現状値)	R7年度	R9年度	R11年度
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (市民意識調査：「満足」「まあ満足」の割合の合計)	63.8%	65%	67%	69%
参考指標	出典			
文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会など、本市内での文化的な環境に満足していますか。(「満足」「まあ満足」の割合の合計)	市民意識調査			
あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。(「愛着を感じる」の割合)				
現在、あなたはどの程度幸せですか。(平均幸せ度数)				
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (満足度「平均評価点」)				
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (重要度「平均評価点」)				
文化芸術	地域幸福度 (Well-Being)指標			
幸福度				
生活満足度				

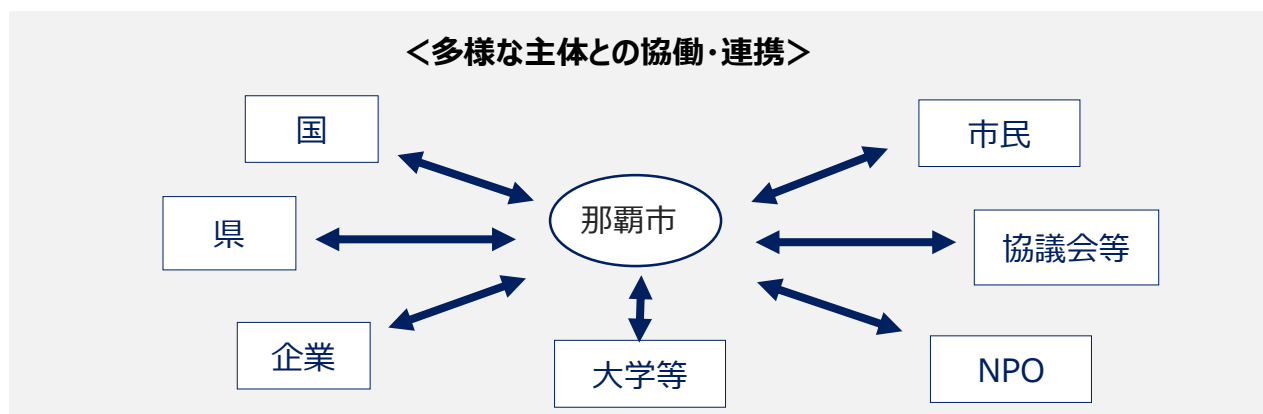
5.2.計画の推進に向けて

(1) 多様な主体との協働・連携

生涯学習の条件整備が必要とされてきた背景には、社会の変化によって直面する様々な課題に対し、市民一人一人が「我が事」として解決できるような基盤整備として、いつでも、どこでも、だれでも学べる社会を目指すという考え方があります。

那覇市は、多くの先人達が築いてきた伝統や歴史、文化を礎とした、様々な分野で活躍する人材や生涯学習施設・関連施設、NPO等が提供する学習や活動の機会といった豊富な学習資源が存在しています。

計画の推進を通して、多くの市民が、主体的な「まなび」の場の拡充及び「実践・行動」によるつながりを広げるとともに、市民、NPO、企業、大学、行政等が相互に信頼関係のうえに立って、協働しながら様々な社会課題や生活課題に取り組むことが肝要です。

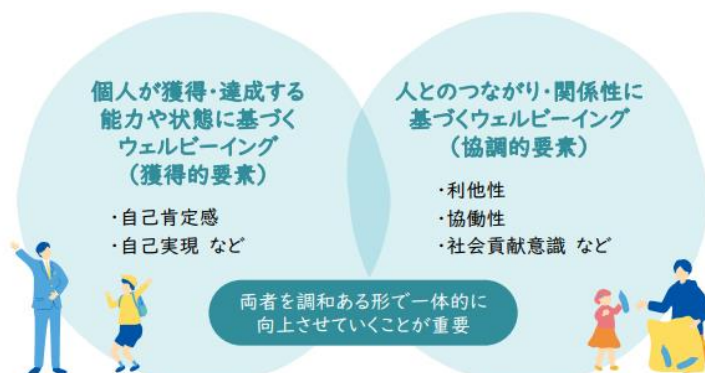


(2) 市民の生きがい (Well-being) の創出

人生100年時代、Society5.0の到来、DXの急速な進展など、変化の激しい予測困難な（VUCAの）時代においても、市民が幸せや生きがいを実感でき、豊かな暮らしを送ることができるよう、生涯学習がもつ、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の「学びと活動の循環」を生むという機能の重要度が高まっています。

「学びと活動の循環」を生むプロセスとして、近年AARサイクル（P.29 参照）が注目され、市民一人ひとりが、目標に向かって柔軟に修正・改善を繰り返すことで、自分の学びをコントロールする自己調整力を高めることも重要とされています。

本計画をととして、市民と行政を含む多様な主体が、生涯学習の重要性を共通認識し、市民一人ひとりが主役となって生きがいを創出するために、庁内外における取り組みを推進することを目指します。



用語	説明	掲載ページ
AARサイクル	「OECD（経済協力開発機構）ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」で提唱されている、Anticipation（見通し）－Action（行動）－Reflection（振り返り）を繰り返す学習プロセスのこと。	25、29
DX（デジタルトランスフォーメーション）	デジタル技術を活用することで人々の生活をより良いものに変革すること。デジタル技術の活用を通じて、様々なサービス及びそれを生み出す組織や文化・風土を変革し、新しい価値を創出する。	2、5、6、7、25
SDGs	「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現をめざす世界共通の目標のこと。	2、25
Society.5.0	サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと。	2、25
VUCA	「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」の頭文字を取ったもので、物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な状態。	25、29
アウトプット	施策や事業を実施したことにより生じる結果（結果）を示す。	23、28
アウトカム	施策や事業が対象にもたらした変化（成果）を示す。	23、24、28
ウェルビーイング（well-being）	身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。	2、5、6、19
共生社会	さまざまな人々が、すべて分け隔てのなく暮らしていくことのできる社会。支える人と支えを受ける人に分かれることなく、ともに支え合い、さまざまな人々の能力が発揮されている活力ある社会。	2、5、10
コミュニティ・スクール（学校運営協議会）	学校運営協議会を設置している学校のこと。学校と家庭・地域が一緒に子どもたちの成長を支え、地域に開かれ、地域とともにある学校づくりを持続的に推進していくことを目的としている。	18
社会教育	学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み、持続的な地域コミュニティを支える基盤となるもの。	3、14、27、28
社会教育士	社会教育士とは、令和2年度から始まった、学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割をはたす専門人材の称号。	27
社会的包摂	共生社会をめざす上で、社会参画に制約のある高齢者、障がい者、女性、外国人、貧困の状況にある子ども、孤独・孤立の状況にある者などを含め、誰一人として取り残すことのない社会。	2、6、16、18
リカレント教育	リカレントとは、「繰り返す」「循環する」という意味。学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。	13
リスキリング	新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適應するために、必要なスキルを獲得する／させること。	13

社会教育士ってなに？

私たちのまち、暮らしには、さまざまな課題が山積しています。

たとえば、コミュニティの希薄化、空き店舗が増える商店街、子育てや介護が生む孤立、居場所や出番がない子ども・若者、災害から命を守る防災の備え、国籍の違いや障がいの有無などによる分断など…。

地域全体で、地域の抱える課題を解決し続けていくためには、

- 地域の課題に対する当事者意識を持って、
- より多くの人々や活動が協働しながら、
- これまでの経験や学んだ成果を活かし、工夫しながら参加できる地域活動や市民活動を豊かにしていくことが求められています。

地域を面白くしたい、新たな人ともっと出会いたい、多様な人ともっとつながりながら活動したい、という前向きな気持ちになれるきっかけが、地域にたくさん存在していなければ、大人も子どもも、そして地域も成長していくことはできません。

このきっかけにあたる取組を、人々の自由で自発的な学習活動を支援する社会教育という分野では、「学び」と呼んでいます。

こうした「学び」を社会のいたるところにたくさん仕掛け、豊かな地域づくりへの展開を支援する専門人材が、社会教育士です。

今後、社会教育士は、社会教育施設や教育委員会事務局だけでなく、地域、社会、世界で解決が目指される多様な課題に取り組む地方公共団体の各部署や、NPO、企業、学校などの他、地域活動やボランティア活動などにおいても、活躍することが期待されています。



社会教育士

社会教育主事と何が違うの？

社会教育士は令和2年度から始まった制度ですが、もともと「社会教育主事」という、社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる専門的教育職員の制度があり、社会教育法に基づいて教育委員会に置くこととされています。

社会教育士制度は、この社会教育主事になるために修得すべき科目等を定めた社会教育主事講習等規程の一部改正によってできた制度です。

社会教育主事は、都道府県・市町村教育委員会から「社会教育主事」として、発令されなければ、その職務に就くことができません。

そのため、これまでもNPOや社会教育関係団体、企業、学校教職員、PTAなどの方々が講習や養成課程を受講し、様々な場で活躍していましたが、「社会教育主事」とは名乗ることができませんでした。

そこで、講習や養成課程における学習成果がさらに広く社会における教育活動に生かされるよう、定められた科目を修了した者は「社会教育士」と称することができるようになりました。



引用：文部科学省「【社会教育士ってなに？】社会教育士制度について」

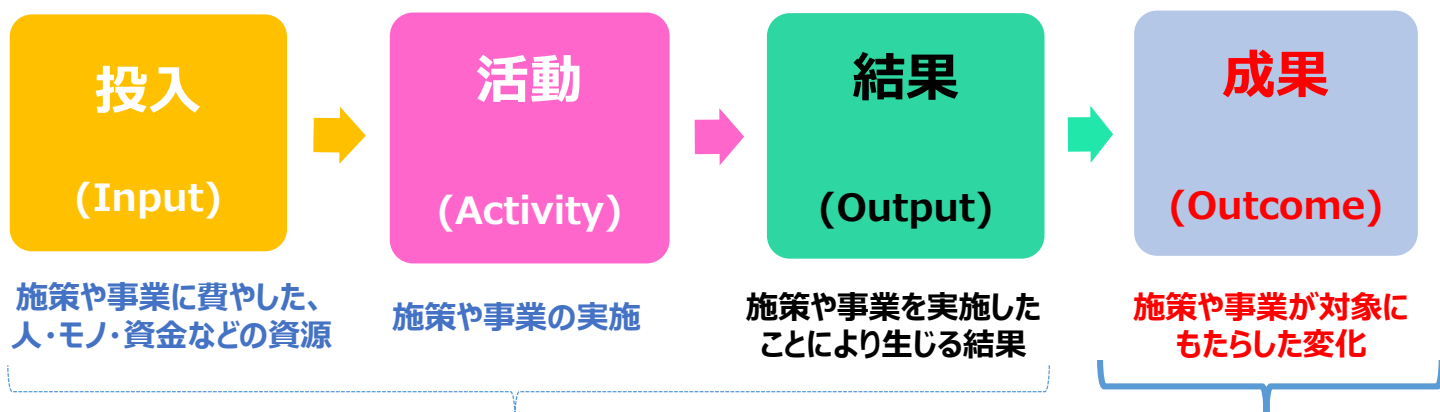
ロジックモデル（アウトプットとアウトカム）

ロジックモデルは、施策が目標とする成果を達成するに至るまでの論理的な関係を体系的に図式化したものです。原因と結果の因果関係の論理構造図で、「何のために、何をする」「何をすることで、何をもちたすか」を示しています。

■ **アウトプット（Output）**：施策や事業を実施したことにより生じる結果（結果）

■ **アウトカム(Outcome)**：施策や事業が対象にもたらした変化（成果）

< イメージ図 >



従来行われてきた「評価」の範囲

**施策や事業が
本来目指したいもの**

< 社会教育事業のアウトプットとアウトカムの参考例 >

個別評価項目	アウトプット（活動・事業実績）	アウトカム（事業の直接的な効果・理解度）
A 知識・技術の習得	・ 講座終了者数 ・ 知識の習得にかえた時間数	・ 講座内容の理解度 ・ 受講者の学習の継続率
B 仲間づくり	・ 講座で知り合った人の数	・ 参加者の満足度 ・ 団体・グループへの加入率
C 地域課題の解決	・ 地域課題に気付くことにかけた時間数	・ 受講者の意義・行動変容度 ・ 受講者の自主的な事業企画 ・ 実施度
D 学習の仕方の習得	・ 講座終了者数 ・ 学習相談件数	・ 講座内容の理解度 ・ 学習の継続率
E 普及・啓発	・ 資料の配布部数 ・ アクセス数	・ 地元紙等での報道数 ・ 住民の意識の変容度 ・ 資料の認知度
F 市民講師の発掘・養成	・ 養成講座修了者数	・ 講座等での指導団体 ・ 講師バンクの登録人数
G リーダー層の発掘・養成	・ 講座修了者数 ・ リーダー養成にかけた時間数	・ 講座等での指導・活動団体 ・ 参加者の満足度
H ボランティアの発掘・養成	・ 講座修了者数 ・ ボランティアについての情報提供数	・ ボランティアとしての活動回数 ・ ボランティアバイクの登録人数
I 団体の活性化	・ 活動参加者数	・ 活動参加の満足度
J 他機関・団体との連携	・ 連携団体数 ・ 連携者数	・ 新たに活動を開始した事業数

出典：「社会教育推進のPDCAサイクルを確立するために必要とされる評価指標の在り方に関する調査」

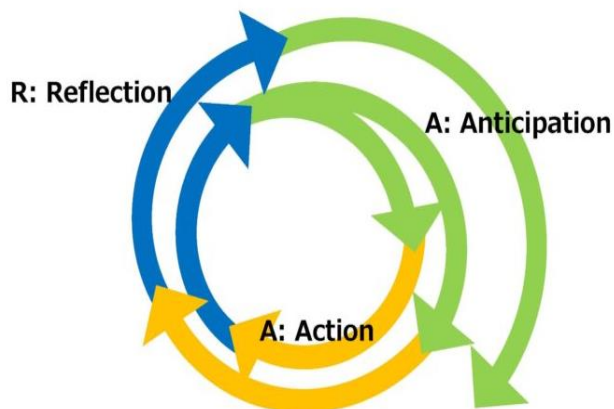
AARサイクル（P.25）とは？

AARサイクルは、ある程度の見通しが立ったら、まずはやってみて（挑戦し）、修正・改善を繰り返すことで学びの自己調整力を高め、少しずつ完成に近づけていく課題解決サイクルのことです。

見通し（Anticipation）、行動（Action）、振り返り（Reflection）の頭文字をとったもので、「OECD（経済協力開発機構）ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」においても、学びの中核的な基盤の一つとなっています。

Anticipationには、良き未来を構想し、わくわくしたりするという意味が込められています。良い未来を予期して、やってみて（Action）、振り返って（Reflection）、改善を繰り返したり新しいことを考えてやっていくというような、わくわくしながら次へ、次へという循環が駆動されていくとも言われています。

（AAR循環のイメージ）



© 一般財団法人 人生100年社会デザイン財団

なぜAARサイクルが必要なのか？

コロナ禍を経て、さらに予測困難で先行き不透明な激動の時代（VUCAの時代）とされる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問題にどう立ち向かうのかが問われています。

答えがない課題に立ち向かうには、まずは予測を立て挑戦し、試行錯誤しながら、失敗も前向きに捉え、目標に向かって柔軟に修正・改善を繰り返すことが重要です。



© 朝日新聞社

PDCAとの違いや比較

PDCAサイクルは、主に組織やビジネスの過程などを対象として行い、何らかの前提に基づいて中期的な計画を立て、その通りに実行し、評価と改善を行うサイクルです。

計画の前提となる社会情勢の変化が激しく、計画を修正せざるを得ない状況が繰り返される環境下では、途中で柔軟に計画を修正することが難しい側面があります。

他方、AARサイクルは、主に学びの主役である個人を対象としており、激動の社会変化にも対応できるスピード感や、失敗にも寛容で挑戦を促す側面が強みです。

資料編

No. 1 第3次那覇市生涯学習推進計画策定要領

第3次那覇市生涯学習推進計画策定要領

生涯学習推進本部
(令和6年5月24日市長決裁)

1 策定の目的

第3次那覇市生涯学習推進計画（以下「第3次推進計画」という。）の策定は、第2次那覇市生涯学習推進計画（以下「第2次推進計画」という。）の評価を踏まえ、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」の実現と、市民の「ウェルビーイングの向上」を目指して、本市の生涯学習施策を体系的に結びつけ、総合的に展開することを目的とする。

2 策定の基本方針

第3次推進計画は、第5次那覇市総合計画、第3次那覇市教育振興基本計画との整合性を図るとともに、那覇市生涯学習推進協議会（以下「協議会」という。）で審議した事項などを踏まえ策定する。

(1) 第5次那覇市総合計画の中間検証及び見直しに係る社会情勢の変化の反映

第5次那覇市総合計画における「5つの柱（「withコロナ・afterコロナへの対応」「デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進」「SDGs（持続可能な開発目標）の達成」「カーボンニュートラル（脱炭素化）の実現」「ウェルビーイングの実現）」をはじめ、急速に変化する社会の状況や市民の意識等を踏まえて策定する。

(2) 生涯学習関係団体等から意見等の聴取・反映

生涯学習関係団体等の外部委員から構成される協議会の意見等に加え、なほ市民協働大学、生涯学習関係施設の利用者アンケート及びパブリックコメント等における市民意見を反映させる等、市民との協働の趣旨を踏まえて計画を策定する。

(3) 時代変化に対応可能な計画

将来予測が困難な時代における、生涯学習の推進に向けた理念や目指す方向性を示し、時代変化に対応可能な計画書となるよう努める。

3 策定の手順

(1) 第3次推進計画策定過程の承認

那覇市生涯学習推進本部（以下「推進本部」という。）会議において、第3次推進計画策定過程などの承認を得る。

(2) 協議会へ諮問

推進本部本部長（市長）は、協議会に第3次推進計画策定に関し諮問する。

(3) 原案の作成

内容検討委員会において原案を作成する。

(4) 市民から意見等の聴取・反映

原案作成にあたっては、市民や生涯学習関係団体などからの、意見等の聴取、アンケート及びパブリックコメントを実施し、出来る限り原案へ反映させていく。

(5) 原案の検討

幹事会において、生涯学習関係団体等からの意見やパブリックコメントの結果等を踏まえた原案について検討し、推進本部に提案する。

No. 1 第3次那覇市生涯学習推進計画策定要領

(6) 推進本部へ答申

協議会会長は、幹事会から提案された第3次推進計画案を協議会で審議し、本部長に答申する。

(7) 第3次推進計画の決定

協議会会長からの答申を尊重しつつ、推進本部において審議し決定する。

4 内容検討委員会の設置

(1) 目的

那覇市生涯学習推進本部幹事会の下に、第3次推進計画の具体的内容を検討し原案を作成することを目的に、内容検討委員会を設置する。

(2) 組織

内容検討委員会は、関係課の主幹級以下の職員からなる25名程度と委員長、副委員長で構成する。

(3) 委員の任命

内容検討委員会の委員長は生涯学習部副部長を充てる。

内容検討委員会の副委員長は、生涯学習課長を充てる。

内容検討委員会の委員は、生涯学習部長が各関係課長から推薦された者を任命する。

(4) 会議

内容検討委員会は、委員長が招集し、座長は委員長が務める。

5 策定の時期

令和6年度中（予定）に第3次推進計画を策定する。

6 第3次推進計画に盛り込む事項案

(1) 計画策定に向けて（策定の意義、計画の目的と位置づけ）

(2) 生涯学習の現状と課題（第2次推進計画の評価）

(3) 生涯学習推進の基本理念

(4) 生涯学習施策の体系化に関すること。

(5) 計画の推進に関すること。

(6) その他

7 計画の期間

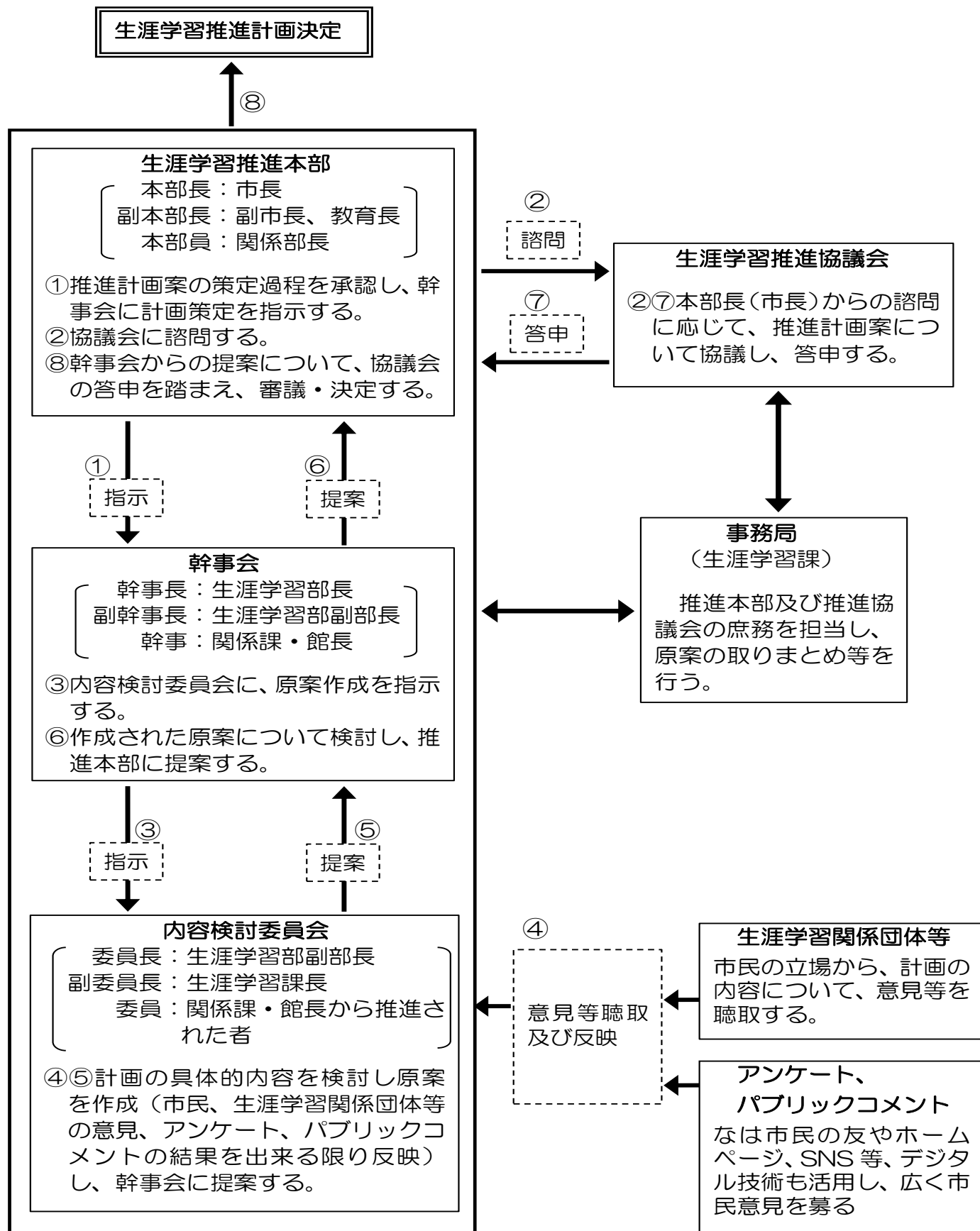
令和7年度から令和11年度までの5年間とする。

付 則

この要領は、令和6年5月24日から施行する。

No. 1 第3次那覇市生涯学習推進計画策定要領

第3次那覇市生涯学習推進計画の策定手順



No. 2 第3次那覇市生涯学習推進計画の策定経過

年	月日	会議名等	内容
令和 6年	5月21日	第1回那覇市生涯学習推進本部	第3次那覇市生涯学習推進計画の策定要領について
	5月31日	第1回那覇市生涯学習推進本部幹事会	- 第2次那覇市生涯学習推進計画の評価（案）について - 第3次那覇市生涯学習推進計画策定について
	6月5日	第1回那覇市生涯学習推進協議会（諮問）	- 第2次那覇市生涯学習推進計画の評価（案）について - 第3次那覇市生涯学習推進計画策定について
	6月25日	第1回那覇市生涯学習推進本部内容検討委員会	第3次那覇市生涯学習推進計画に係る事業選定について
	8月1日 ～8月31日	市民アンケート	生涯学習に関する那覇市民アンケートの実施
	9月19日	第2回那覇市生涯学習推進本部内容検討委員会	第3次那覇市生涯学習推進計画の素案について
	10月1日	第2回那覇市生涯学習推進本部幹事会	第3次那覇市生涯学習推進計画の素案について
	10月15日	第2回那覇市生涯学習推進本部	第3次那覇市生涯学習推進計画の素案について
	10月21日	第2回那覇市生涯学習推進協議会	第3次那覇市生涯学習推進計画の素案について
	11月1日 ～11月30日	パブリックコメント（市民意見募集）	第3次那覇市生涯学習推進計画（素案）に対する市民意見募集
	11月26日	那覇市生涯学習推進計画（素案）パブコメ勉強会	若狭公民館にて計画（素案）に関する出前講座を開催
	12月13日	第3回那覇市生涯学習推進本部内容検討委員会	第3次那覇市生涯学習推進計画（案）の修正等について
	12月18日	第3回那覇市生涯学習推進本部幹事会	第3次那覇市生涯学習推進計画（案）の修正等について
	12月24日	第3回那覇市生涯学習推進協議会	第3次那覇市生涯学習推進計画（案）の修正等について
令和 7年	1月15日	第3回那覇市生涯学習推進協議会（答申）	第3次那覇市生涯学習推進計画（案）について答申
	1月21日	第3回那覇市生涯学習推進本部	第3次那覇市生涯学習推進計画（案）の承認

No.3 第3次那覇市生涯学習推進計画について(諮問)

諮問第1号
令和6年6月5日

那覇市生涯学習推進協議会
会長 長濱 克実 様

那覇市長 知念 覚

第3次那覇市生涯学習推進計画について（諮問）

那覇市生涯学習推進協議会規則第2条第1項第1号に基づき、下記事項について諮問します。

記

【諮問事項】

第3次那覇市生涯学習推進計画について

【答申時期の目安】

令和6年12月下旬頃

No.4 第3次那覇市生涯学習推進計画について(答申)

答 申 書

令和6年6月5日付諮問第1号で諮問のありました「第3次那覇市生涯学習推進計画について」、以下のとおり答申します。

1 第2次那覇市生涯学習推進計画の評価について

当該計画について、概ね良好に推移しているものの、めざそう値の設定が高いがゆえに、「停滞」となっている事業が散見されていたため、次期計画においては、実態に即した進捗管理や評価方法を検討していただくよう求めます。

2 第3次那覇市生涯学習推進計画（案）について

第5次那覇市総合計画の中間見直しや第3次那覇市教育振興基本計画、生涯学習に関する市民アンケート等の結果も踏まえて、以下を提言します。

(1) 基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり

人生100年時代のあらゆるライフステージにおける多様な学習プログラムの充実において、子育てに関する学習機会や金融教育、キャリア教育、事業者や教育機関（大学、専門学校等）を巻き込んだリカレント教育、リスクリングなど、より一層複雑化する社会課題や地域課題等へ対応するための人材育成に関する事業について強化してほしい。

また、「誰一人取り残さない」観点から、外国人の学び、福祉との連携による障がい者の学びやつながりづくりなどに関する活動事例もあれば、計画に盛り込んでほしい。

(2) 基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり

～主として学校区域を拠点として～

学校を取り巻く問題は、家庭環境の多様化や地域社会の変化に伴い、以前に比べ、複雑化・困難化していることが伺える。小学校区まちづくり協議会（準備会も含め）とコミュニティ・スクールの効果的な連携を行い、学校、家庭、地域の教育力の向上に期待したい。

(3) 基本方針：柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

那覇市独自の祭りや伝統芸能に加えて、うちなーぐちについても大事な文化の一つとして、次世代を担うこどもたちへ維持・継承する取り組みをしてほしい。

3 付帯意見

本計画の実施にあたっては、時代変化に対応可能な計画として、適切な進捗管理を行い、市民、事業者等と連携して取り組むよう要望いたします。

令和7年1月15日

那 覇 市 生 涯 学 習 推 進 協 議 会

会 長 長 濱 克 実

委 員 島 村 聡

委 員 松 堂 美 和 子

委 員 与 儀 実 彦

委 員 玉 寄 文 代

副 会 長 柴 田 聡 史

委 員 山 盛 淳 子

委 員 翁 長 有 希

委 員 上 原 啓 渡

委 員 栩 野 浩

No. 5 那覇市生涯学習推進協議会規則

○那覇市生涯学習推進協議会規則

平成6年5月23日

規則第16号

改正 平成11年11月19日規則第51号

(趣旨)

第1条 この規則は、那覇市附属機関の設置に関する条例(昭和52年那覇市条例第2号)第3条の規定に基づき、那覇市生涯学習推進協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担任事務)

第2条 協議会は、市長又は教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 生涯学習推進施策に関すること。
 - (2) 生涯学習関連事業の連携、協力及び調査研究に関すること。
 - (3) 生涯学習の普及及び奨励に関すること。
 - (4) その他生涯学習の推進に必要な事項に関すること。
- 2 協議会は、前項に規定する事項に関し必要と認める事項を市長又は教育委員会に建議することができる。

(組織)

第3条 協議会は、委員18人以内で組織する。

- 2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。
 - (1) 学識経験を有する者 6人以内
 - (2) 関係教育機関を代表する者 6人以内
 - (3) 関係団体を代表する者 6人以内

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選でこれを定める。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(専門部会)

第7条 協議会に必要に応じ、専門的な事項を調査審議させるため専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に属すべき委員は、協議会の議を経て会長が指名する。
- 3 専門部会に部会長及び副部会長を置き、専門部会の委員の互選でこれを定める。
- 4 部会長は、専門部会の会務を掌理する。
- 5 副部会長は、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

付 則 この規則は、公布の日から施行する。

付 則 (平成11年11月19日規則第51号)

- 1 この規則は、公布の日から施行し、改正後の那覇市史編集委員会規則等の規定は、平成11年9月3日(以下「適用日」という。)から適用する。
- 2 この規則の施行の際、現にこの規則による改正に係る附属機関の委員に委嘱又は任命されている市議会議員又は市職員については、適用日において当該委員を解かれたものとする。

No. 6 那覇市生涯学習推進協議会委員名簿

	氏名	所属等	区分
1	ナガハマ カツミ 長濱 克実	一般社団法人沖縄県専修学校各種学校協会 会長	(2)
2	シバタ サトシ 柴田 聡史	国立大学法人琉球大学 地域連携推進機構 准教授	(1)
3	シマムラ サトル 島村 聡	沖縄大学 人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻 教授 地域研究所 所長	(1)
4	ヤマモリ アツコ 山盛 淳子	元小学校校長	(1)
5	マツドウ ミワコ 松堂 美和子	キャリアデザイン研究所 代表	(3)
6	オナガ ユウキ 翁長 有希	一般社団法人沖縄キャリア教育支援企業 ネットワーク理事	(3)
7	ヨギ サネヒコ 与儀 実彦	那覇市牧志駅前ほしぞら公民館利用団体 連絡会会長	(3)
8	ウエハラ アキト 上原 啓渡	一般社団法人 那覇青年会議所 人財拡大委員会 委員長	(3)
9	タマヨセ フミヨ 玉寄 文代	曙小学校区まちづくり協議会 副会長	(3)
10	トチノ ヒロシ 栩野 浩	沖縄ツーリスト株式会社 執行役員	(3)

【区分】

- (1) = 学識経験を有するもの
- (2) = 関係教育機関を代表するもの
- (3) = 関係団体を代表するもの

No. 7 第2次那覇市生涯学習推進計画 評価一覧

柱	方針	方策	指 標			現状値	実績値			めざそう値		達成度
			指 標 名	主管課	指標 単位	H28 年度	R 2 年度	R 5 年度	R 2 年度	R6 年度		
1 協働による生涯学習のまちづくり	(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実	①学習情報の提供・相談	1) 那覇市生涯学習情報提供システムのアクセス数	生涯学習課	件	2,111	1,489	3,635	2,500	3,000	達成	
			2) 図書館来館者数（年間）	中央図書館	人	469,305	250,228	351,741	475,300	481,300	停滞	
			3) レファレンス（調査相談）数	中央図書館	件	907	648	655	1,400	1,780	停滞	
		②地域生活の課題に関する学習プログラムの充実	4) 地域生活の課題に関する講座・学級（市民講座・成人講座・高齢者学級・少年教室・青年講座・親子ふれあい学級・家庭教育学級）の提供数	中央公民館	回	85	40	84	85	85	停滞	
			5) 男女共同参画に関する講座の延べ受講者数（累積）	平和交流・男女参画課	人	24,961	26,883	27,711	27,360	28,677	ほぼ達成	
			6) 那覇市の都市計画に関する講座等の開催数	都市計画課	回	2	2	5	3	5	達成	
			7) 地球温暖化対策の学習（講座）の満足度	環境政策課	%	85	94	100	88	95	達成	
			8) 指定管理運営において那覇市緑化センターでの緑化に関する講座・展示会等の開催数	公園管理課	回	20	24	28	23	27	達成	
			9) 自然観察会等へ参加する市民の満足度	環境保全課	%	70	全中止	100	73	80	達成	
			10) 小学生向け心のバリアフリーセミナー受講校数	福祉政策課	校	5	—	6	5	5	達成	
			11)認知症サポーターの養成の累積数	ちゃーがんじゅう課	人	16,879	24,368	27,093	24,000	29,000	ほぼ達成	
			12)小中学生が参加できる講座等の参加者率について	中央公民館	%	12	11.0	14.9	12	12	達成	
	(2) 人材育成の充実	①本市職員研修等の充実	生涯学習課	人	186	223	225	100	150	達成		
		②生涯学習に係る自主団体等の育成・支援	14) 公民館事業に係る自主団体等の発掘・育成・支援の数	中央公民館	件	50	15	65	53	55	達成	
			15) 「なは市民協働大学」及び「なは市民協働大学院」の卒業生数	まちづくり協働推進課	人	326	500	601	646	867	推進中	
	(3) NPO、大学、企業等との連携	①NPO、大学、企業等とのネットワークづくり	16) 協働大使委嘱者数	まちづくり協働推進課	人	867	1,119	1,218	1,017	1,376	ほぼ達成	
			17) 商店街事務連絡会の開催数	なはまち振興課	回	12	5	10	12	12	停滞	
			18) 新規に健康料理教室を実施する団体数	健康増進課	団体	2	0	2	2	2	達成	
			19) NPO、民間事業者等による管理・運営委託等を行っている社会教育施設、社会体育施設数	生涯学習課	施設	6	6	6	6	7	ほぼ達成	

No.7 第2次那覇市生涯学習推進計画 評価一覧

柱	方針	方策	指 標		指標 単位	現状値	実績値			めざそう値		達成度
			指 標 名	主管課		H28 年度	R2 年度	R5 年度	R2 年度	R6 年度		
2	「まなびと実践」によるコミュニティづくり （学校区域を拠点としたコミュニティづくり）	①総合的な学校開放の推進	20) 地域学校連携施設利用回数及び利用人数	生涯学習課	回	7,941	6,025	10,489	8,600	9,900	達成	
			21) 学校体育施設開放の利用率	市民スポーツ課	%	94.4	93	93.1	95.0	95.0		
			22) 放課後子ども教室等が設置されている小学校区数	生涯学習課	校区	30	27	30	36	36	推進中	
		②新たな地域自治のしくみづくり	23) 校区まちづくり協議会設立校区数（累計）	まちづくり協働推進課	校区	6	13	15	14	26	ほぼ達成	
			(2) 家庭教育力・地域教育力の充実	①家庭教育力の充実	24) ブックススタート事業参加率	生涯学習課	%	98.6	－	99.9	99.0	99.5
	25) 乳幼児学級・家庭教育学級・親子ふれあい教室の参加者の満足度	中央公民館			%	98	95.6	96.7	98	98	停滞	
	26) 地域子育て支援拠点施設数	こども教育保育課			施設	18	19	17	19	19	停滞	
	27) 親のまなびあいプログラムの受講団体数	生涯学習課			団体	15	2	4	16	17	停滞	
	②地域教育力の充実	28) 放課後子ども教室に関わるスタッフ（推進員・サポーター・コーディネーター、ボランティア）の参加人数		生涯学習課	人	277	273	254	292	298	停滞	
		29) “やる気・元気旗頭フェスタ i n なは”に関わる大人の参加人数		生涯学習課	人	299	－	320	305	310	達成	
	3	(1) 歴史・文化資源等を生かしたまちづくりの推進	①歴史・文化資源等を生かした事業の充実	30) CGG運動の参加人数	生涯学習課	人	19,500	－	8,285	20,000	20,500	停滞
31) 文化財展示会・解説会の開催数				文化財課	回	15	10	24	18	24	達成	
32) 歴史・文化講座（首里大学等）の受講者数				文化財課	人	371	0	400	380	380	達成	
33) 出前こども博物館の講座数				文化財課	回	7	17	20	9	25	ほぼ達成	
34) 「今後うちなーぐちを少しずつ使いたいと思う」人の割合				文化振興課	%	70	—	96.0%	80%	95%	達成	
35) なは市民芸術展へ作品を出展する応募者数			文化振興課	人	125	144	138	135	150	ほぼ達成		
②市民との協働による歴史・文化の推進			36) 史跡めぐり案内講師「案内親方」・識名園ボランティアガイド「識名里主」の利用回数	文化財課	回	176	21	157	190	190	停滞	
			37) 地域団体との共催事業数	文化財課	件	5	2	5	6	7	推進中	
			38) 那覇まちま〜い利用者数	観光課	人	15,288	2,522	1,244	23,800	30,000	停滞	
			39) なは青年祭参加団体数	生涯学習課	団体	18	－	11	20	22	停滞	
		39) なは青年祭参加団体数	生涯学習課	団体	18	－	11	20	22	停滞		

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

調査対象者：那覇市内の10代以上のすべての世代

調査期間：令和6年8月2日～8月31日

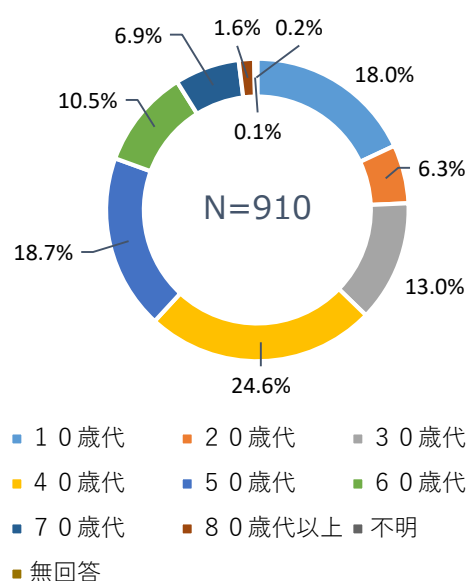
設問数：11問

回答方法：webまたは質問紙

回答者数：912 有効回答者数 N=910

問1. 年代

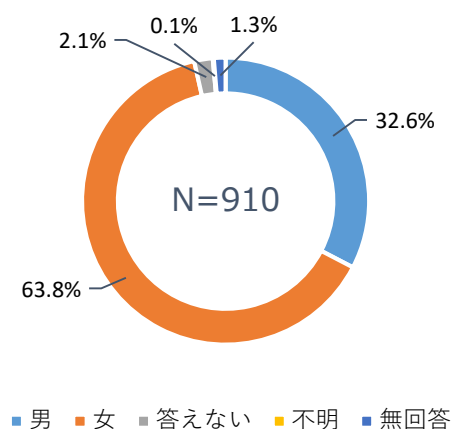
回答項目	回答数	割合
10歳代	164	18.0%
20歳代	57	6.3%
30歳代	118	13.0%
40歳代	224	24.6%
50歳代	170	18.7%
60歳代	96	10.5%
70歳代	63	6.9%
80歳代以上	15	1.6%
不明	1	0.1%
無回答	2	0.2%
総計	910	100.0%



40歳代の回答が24.6%で最も多く、次いで50歳代、10歳代の回答が多い結果となりました。

問2. 性別

回答項目	回答数	割合
男	297	32.6%
女	581	63.8%
答えない	19	2.1%
不明	1	0.1%
無回答	12	1.3%
総計	910	100.0%



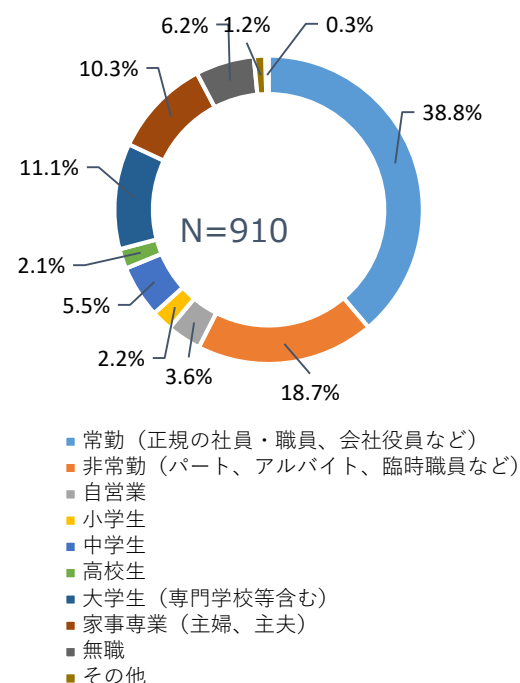
性別での割合は、女性が63.8%であり、32.6%の男性の約2倍でした。

No. 8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

問3. 属性（職業）

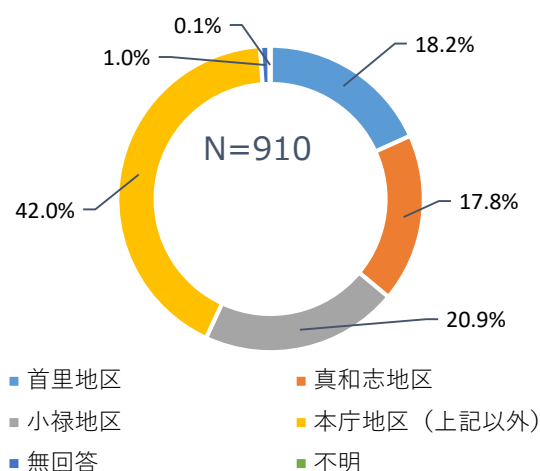
回答項目	回答数	割合
常勤（正規の社員・職員、会社役員など）	353	38.8%
非常勤（パート、アルバイト、臨時職員など）	170	18.7%
自営業	33	3.6%
小学生	20	2.2%
中学生	50	5.5%
高校生	19	2.1%
大学生（専門学校等含む）	101	11.1%
家事専業（主婦、主夫）	94	10.3%
無職	56	6.2%
その他	11	1.2%
無回答	3	0.3%
総計	910	100.0%



常勤が38.8%で最も多く、次いで非常勤18.7%、大学生11.1%でした。

問4. お住いの地域はどこですか。

回答項目	回答数	割合
首里地区	166	18.2%
真和志地区	162	17.8%
小禄地区	190	20.9%
本庁地区（上記以外）	382	42.0%
無回答	9	1.0%
不明	1	0.1%
総計	910	100.0%



本庁地区（首里、真和志、小禄地区以外）が最も多く、42.0%でした。首里、真和志、小禄地区の回答割合は、約17～20%とほぼ同じ割合でした。

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

問5. この1年間にどのような生涯学習（学ぶ活動）を行いましたか。（複数回答）

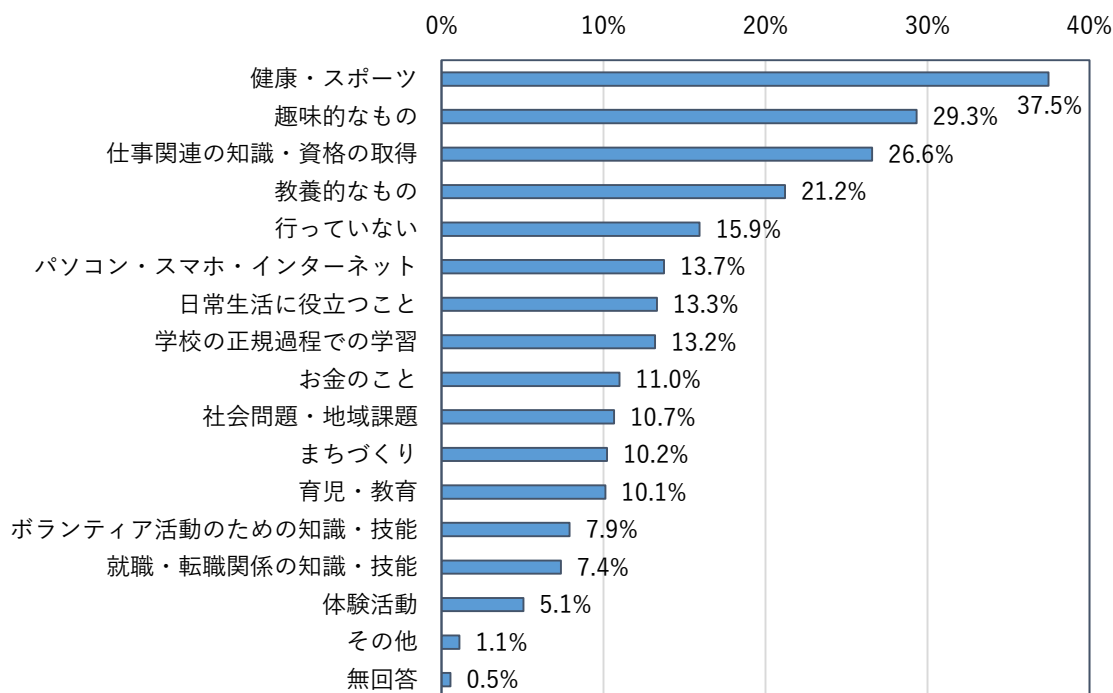
回答項目	回答数	割合
健康・スポーツ	341	37.5%
趣味的なもの	267	29.3%
仕事関連の知識・資格の取得	242	26.6%
教養的なもの	193	21.2%
行っていない	145	15.9%
パソコン・スマホ・インターネット	125	13.7%
日常生活に役立つこと	121	13.3%
学校の正規過程での学習	120	13.2%
お金のこと	100	11.0%
社会問題・地域課題	97	10.7%
まちづくり	93	10.2%
育児・教育	92	10.1%
ボランティア活動のための知識・技能	72	7.9%
就職・転職関係の知識・技能	67	7.4%
体験活動	46	5.1%
その他	10	1.1%
無回答	5	0.5%
合計	2136	—
回答者数	910	234.7%

生涯学習（学ぶ活動）の内容について、「健康・スポーツ」が最も多く、次いで「趣味的なもの」「仕事関連の知識・資格の取得」「教養的なもの」の順に多い結果となりました。

また、「（生涯学習を）行っていない」割合は約16%で上位から5番目となっています。

全体をみると、約84%の市民が、直近1年間で生涯学習（学ぶ活動）を行っていることが窺えます。

※複数回答の項目であり、回答者数を母数として割合を算出したため、合計値が100%を超えている。



No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

<問5の属性別集計（年代・性別・属性（職業）・地域）※不明・無回答を除く>

いずれの属性においても、「健康・スポーツ」の割合が高い傾向にあります。年代別で観ると、20～50代の働く世代は「仕事」に関する生涯学習を行っている傾向が高くなっています。

※ ■ は1位、■ は2位、■ は3位の項目

回答者属性 (N=各属性の回答者数) 上段(回答数) 下段(%)		回答項目																
		健康・ スポーツ	趣味	教養	仕事	日常生活	ボランティア	地域課題・ 社会問題・ まちづくり	育児・教育	就職・転職	生活体験	自然・ お金	パソコン等	(正規課程) 学校	その他	行っていない	無回答	
年代	10歳代(N=164)	70 42.7	64 39.0	33 20.1	27 16.5	19 11.6	14 8.5	20 12.2	10 6.1	7 4.3	24 14.6	8 4.9	12 7.3	26 15.9	85 51.8	6 3.7	7 4.3	0 0.0
	20歳代(N=57)	16 28.1	21 36.8	14 24.6	24 42.1	4 7.0	3 5.3	4 7.0	2 3.5	1 1.8	11 19.3	0 0.0	6 10.5	10 17.5	14 24.6	1 1.8	7 12.3	0 0.0
	30歳代(N=118)	40 33.9	40 33.9	29 24.6	35 29.7	17 14.4	8 6.8	10 8.5	13 11.0	22 18.6	10 8.5	11 9.3	21 17.8	14 11.9	7 5.9	0 0.0	24 20.3	0 0.0
	40歳代(N=224)	79 35.3	41 18.3	43 19.2	70 31.3	38 17.0	13 5.8	15 6.7	22 9.8	32 14.3	10 4.5	17 7.6	25 11.2	24 10.7	10 4.5	0 0.0	51 22.8	0 0.0
	50歳代(N=170)	69 40.6	36 21.2	28 16.5	58 34.1	18 10.6	6 3.5	22 12.9	18 10.6	10 5.9	4 2.4	27 15.9	18 10.6	2 1.2	2 1.2	34 20.0	0 0.0	
	60歳代(N=96)	29 30.2	25 26.0	28 29.2	24 25.0	12 12.5	12 12.5	18 18.8	19 19.8	9 9.4	1 1.0	3 3.1	8 8.3	17 17.7	1 1.0	0 0.0	16 16.7	2 2.1
	70歳代(N=63)	29 46.0	29 46.0	16 25.4	4 6.3	10 15.9	13 20.6	8 12.7	9 14.3	3 4.8	1 1.6	3 4.8	1 1.6	13 20.6	1 1.6	1 1.6	4 6.3	2 3.2
	80歳代以上(N=15)	9 60.0	10 66.7	1 6.7	0 0.0	3 20.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 20.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0
性別	男(N=297)	124 41.8	78 26.3	72 24.2	85 28.6	40 13.5	15 5.1	49 16.5	38 12.8	24 8.1	25 8.4	12 4.0	37 12.5	51 17.2	43 14.5	2 0.7	34 11.4	1 0.3
	女(N=581)	208 35.8	175 30.1	114 19.6	150 25.8	74 12.7	56 9.6	45 7.7	55 9.5	67 11.5	40 6.9	32 5.5	60 10.3	70 12.0	74 12.7	8 1.4	106 18.2	3 0.5
	答えない(N=19)	3 15.8	6 31.6	2 10.5	4 21.1	5 26.3	0 0.0	3 15.8	0 0.0	1 5.3	2 10.5	1 5.3	3 15.8	3 15.8	1 5.3	0 0.0	4 21.1	0 0.0
属性(職業)	常勤(N=353)	120 34.0	82 23.2	69 19.5	147 41.6	44 12.5	16 4.5	42 11.9	41 11.6	41 11.6	15 4.2	20 5.7	53 15.0	54 15.3	13 3.7	0 0.0	60 17.0	0 0.0
	非常勤(N=170)	62 36.5	50 29.4	35 20.6	39 22.9	28 16.5	17 10.0	18 10.6	21 12.4	20 11.8	11 6.5	8 4.7	19 11.2	19 11.2	6 3.5	1 0.6	35 20.6	0 0.0
	自営業(N=33)	11 33.3	11 33.3	9 27.3	9 27.3	5 15.2	4 12.1	5 15.2	8 24.2	9 27.3	1 3.0	2 6.1	4 12.1	6 18.2	0 0.0	0 0.0	3 9.1	1 3.0
	小学生(N=20)	11 55.0	14 70.0	2 10.0	0 0.0	6 30.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	2 10.0	2 10.0	2 10.0	8 40.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0
	中学生(N=50)	23 46.0	23 46.0	10 20.0	3 6.0	7 14.0	3 6.0	13 26.0	1 2.0	2 4.0	2 4.0	1 2.0	3 6.0	13 26.0	32 64.0	1 2.0	3 6.0	0 0.0
	高校生(N=19)	9 47.4	9 47.4	3 15.8	3 15.8	3 15.8	6 31.6	3 15.8	1 5.3	3 15.8	0 0.0	1 5.3	2 10.5	2 10.5	7 36.8	0 0.0	1 5.3	0 0.0
	大学・専門等(N=101)	35 34.7	30 29.7	29 28.7	32 31.7	3 3.0	4 4.0	6 5.9	7 6.9	2 2.0	30 29.7	4 4.0	8 7.9	12 11.9	51 50.5	3 3.0	4 4.0	0 0.0
	家事専業(N=94)	43 45.7	28 29.8	18 19.1	5 5.3	17 18.1	10 10.6	5 5.3	5 5.3	11 11.7	6 6.4	4 4.3	4 4.3	5 5.3	3 3.2	0 0.0	24 25.5	1 1.1
	無職(N=56)	21 37.5	15 26.8	16 28.6	3 5.4	7 12.5	8 14.3	4 7.1	6 10.7	2 3.6	1 1.8	4 7.1	5 8.9	12 21.4	0 0.0	1 1.8	14 25.0	2 3.6
	その他(N=11)	5 45.5	4 36.4	1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2	1 9.1	3 27.3	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1	0 0.0
地域	首里地区(N=166)	58 34.9	48 28.9	39 23.5	40 24.1	26 15.7	13 7.8	20 12.0	19 11.4	20 12.0	7 4.2	17 10.2	13 7.8	30 18.1	28 16.9	1 0.6	22 13.3	0 0.0
	真和志地区(N=162)	71 43.8	58 35.8	32 19.8	47 29.0	27 16.7	14 8.6	21 13.0	11 6.8	21 13.0	14 8.6	8 4.9	24 14.8	15 9.3	14 8.6	2 1.2	22 13.6	1 0.6
	小禄地区(N=190)	66 34.7	44 23.2	36 18.9	56 29.5	23 12.1	9 4.7	17 8.9	16 8.4	19 10.0	14 7.4	6 3.2	23 12.1	20 10.5	16 8.4	2 1.1	42 22.1	0 0.0
	本庁地区(N=382)	140 36.6	111 29.1	84 22.0	99 25.9	43 11.3	35 9.2	39 10.2	47 12.3	31 8.1	32 8.4	15 3.9	40 10.5	60 15.7	60 15.7	4 1.0	59 15.4	2 0.5

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

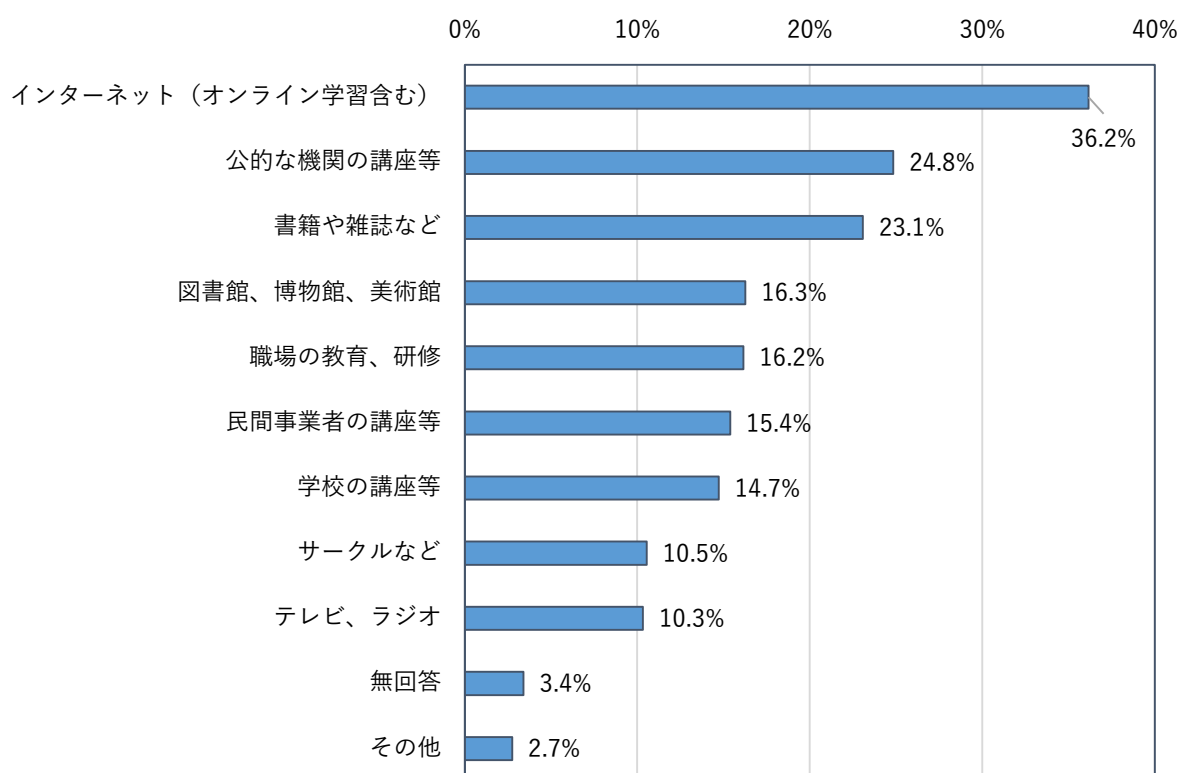
問6. どのようにして生涯学習（学ぶ活動）を行っていますか。（手段・形式）（複数回答）

回答項目	回答数	割合
インターネット（オンライン学習含む）	329	36.2%
公的な機関の講座等	226	24.8%
書籍や雑誌など	210	23.1%
図書館・博物館・美術館	148	16.3%
職場の教育、研修	147	16.2%
民間事業者の講座等	140	15.4%
学校の講座等	134	14.7%
サークルなど	96	10.5%
テレビ、ラジオ	94	10.3%
無回答	31	3.4%
その他	25	2.7%
合計	1580	—
回答者数	910	173.6%

生涯学習（学ぶ活動）の学ぶ手段として、「インターネット（オンライン学習含む）」が最も多く、36.2%となっています。次いで、「公的な機関の講座等」「書籍や雑誌など」が多くなっています。

講座等や研修、社会教育施設等での学習など、自らが足を運んで学習機会にふれている様子が見られる一方、場所や時間等の制限がより少ないと思われるインターネット（オンライン学習）の活用が顕著となっている様子が窺えます。

※複数回答の項目であり、回答者数を母数として割合を算出したため、合計値が100%を超えている。



No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

＜問6の属性別集計（年代・性別・属性（職業）・地域）※不明・無回答を除く＞

いずれの属性においても、「インターネット（オンライン学習含む）」の割合が高い傾向にあります。年代別にみると、60代までの世代はインターネット（オンライン学習含む）にて学習し、70代以上の世代は公的講座を中心に学習している傾向がみられます。

※ ■ は1位、■ は2位、■ は3位の項目

回答項目		公的講座	民間講座・通信教育	学校の講座・教室	サークル・グループ	職場の教育・研修	図書館・博物館・美術館	テレビ、ラジオ	インターネット（オンライン学習含む）	書籍、雑誌	その他	無回答
回答者属性	(N=各属性の回答者数) 上段（回答数） 下段（％）											
年代	10歳代(N=164)	34 20.7	10 6.1	76 46.3	11 6.7	5 3.0	24 14.6	27 16.5	46 28.0	15 9.1	9 5.5	11 6.7
	20歳代(N=57)	5 8.8	5 8.8	23 40.4	4 7.0	11 19.3	7 12.3	2 3.5	18 31.6	14 24.6	0 0.0	4 7.0
	30歳代(N=118)	24 20.3	12 10.2	5 4.2	11 9.3	28 23.7	30 25.4	18 15.3	54 45.8	39 33.1	3 2.5	2 1.7
	40歳代(N=224)	45 20.1	34 15.2	15 6.7	17 7.6	48 21.4	38 17.0	11 4.9	90 40.2	52 23.2	5 2.2	4 1.8
	50歳代(N=170)	29 17.1	44 25.9	8 4.7	14 8.2	39 22.9	17 10.0	9 5.3	71 41.8	51 30.0	6 3.5	3 1.8
	60歳代(N=96)	36 37.5	19 19.8	7 7.3	16 16.7	14 14.6	14 14.6	12 12.5	38 39.6	20 20.8	1 1.0	1 1.0
	70歳代(N=63)	42 66.7	14 22.2	0 0.0	21 33.3	2 3.2	16 25.4	12 19.0	11 17.5	19 30.2	1 1.6	3 4.8
	80歳代以上(N=15)	10 66.7	2 13.3	0 0.0	1 6.7	0 0.0	2 13.3	3 20.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	2 13.3
性別	男(N=297)	65 21.9	33 11.1	53 17.8	33 11.1	45 15.2	45 15.2	32 10.8	126 42.4	81 27.3	10 3.4	10 3.4
	女(N=581)	155 26.7	106 18.2	79 13.6	58 10.0	100 17.2	98 16.9	57 9.8	195 33.6	125 21.5	15 2.6	18 3.1
	答えない(N=19)	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	4 21.1	3 15.8	7 36.8	3 15.8	0 0.0	2 10.5
属性（職業）	常勤(N=353)	61 17.3	51 14.4	20 5.7	34 9.6	101 28.6	54 15.3	24 6.8	158 44.8	106 30.0	10 2.8	7 2.0
	非常勤(N=170)	47 27.6	38 22.4	10 5.9	20 11.8	28 16.5	34 20.0	22 12.9	64 37.6	42 24.7	2 1.2	3 1.8
	自営業(N=33)	17 51.5	8 24.2	1 3.0	4 12.1	6 18.2	5 15.2	2 6.1	18 54.5	11 33.3	0 0.0	0 0.0
	小学生(N=20)	11 55.0	3 15.0	2 10.0	3 15.0	0 0.0	2 10.0	4 20.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0
	中学生(N=50)	11 22.0	3 6.0	8 16.0	4 8.0	1 2.0	11 22.0	13 26.0	18 36.0	9 18.0	7 14.0	4 8.0
	高校生(N=19)	5 26.3	1 5.3	13 68.4	1 5.3	3 15.8	5 26.3	3 15.8	7 36.8	3 15.8	1 5.3	0 0.0
	大学・専門等(N=101)	7 6.9	5 5.0	74 73.3	5 5.0	5 5.0	9 8.9	6 5.9	25 24.8	9 8.9	1 1.0	7 6.9
	家事専業(N=94)	37 39.4	17 18.1	6 6.4	12 12.8	1 1.1	14 14.9	8 8.5	20 21.3	18 19.1	1 1.1	4 4.3
	無職(N=56)	26 46.4	13 23.2	0 0.0	7 12.5	0 0.0	13 23.2	9 16.1	14 25.0	11 19.6	0 0.0	3 5.4
	その他(N=11)	4 36.4	0 0.0	0 0.0	4 36.4	2 18.2	1 9.1	2 18.2	3 27.3	1 9.1	3 27.3	0 0.0
	首里地区(N=166)	46 27.7	31 18.7	25 15.1	18 10.8	25 15.1	37 22.3	18 10.8	63 38.0	34 20.5	8 4.8	5 3.0
地域	真和志地区(N=162)	49 30.2	29 17.9	16 9.9	18 11.1	25 15.4	29 17.9	18 11.1	60 37.0	36 22.2	3 1.9	6 3.7
	小禄地区(N=190)	28 14.7	24 12.6	21 11.1	24 12.6	39 20.5	30 15.8	16 8.4	72 37.9	45 23.7	4 2.1	7 3.7
	本庁地区(N=382)	99 25.9	54 14.1	72 18.8	32 8.4	58 15.2	52 13.6	38 9.9	134 35.1	95 24.9	10 2.6	11 2.9

No.8 市民アンケート

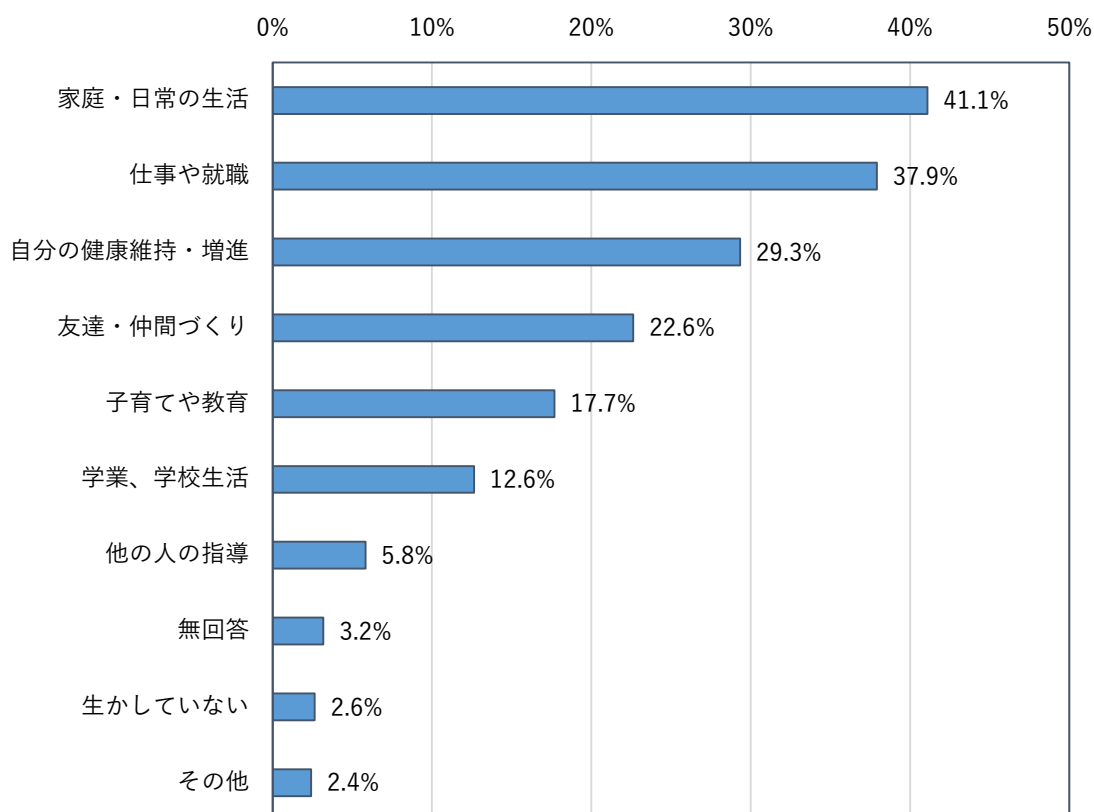
【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

問7. 学んだことをどのように生かしていますか。（複数回答）

回答項目	回答数	割合
家庭・日常生活	374	41.1%
仕事や就職	345	37.9%
自分の健康維持・増進	267	29.3%
友達・仲間づくり	206	22.6%
子育てや教育	161	17.7%
学業、学校生活	115	12.6%
他の人の指導	53	5.8%
無回答	29	3.2%
生かしていない	24	2.6%
その他	22	2.4%
合計	1596	—
回答者数	910	175.4%

学んだことをどのように生かしたかについて、「家庭・日常生活」が最も多く、41.1%となっています。次いで、「仕事や就職」「自分の健康維持・増進」と続いています。個人を取り巻く日常や仕事、生活における何らかの課題等に対して、学びの成果を生かしている様子が窺えます。

※複数回答の項目であり、回答者数を母数として割合を算出したため、合計値が100%を超えている。



No. 8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

<問7の属性別集計（年代・性別・属性（職業）・地域）※不明・無回答を除く>

いずれの属性においても、「家庭・日常生活」で学習の成果を生かしている割合が高い傾向にあります。また、年代別にみると、20代～50代の働く世代にて「仕事や就職」、60代以上の世代で「健康維持・増進」「友達・仲間づくり」の割合が高い傾向にあります。

※ ■ は1位、■ は2位、■ は3位の項目

回答項目 回答者属性 (N=各属性の回答者数) 上段(回答数) 下段(%)		仕事や 就職	家庭・ 日常生活	子育て・ 教育	健康維持・ 増進	学業・ 学校生活	友達・ 仲間づくり	他の人の 指導	その他	生かして いない	無回答
年代	10歳代(N=164)	33 20.1	69 42.1	1 0.6	30 18.3	93 56.7	39 23.8	9 5.5	4 2.4	6 3.7	7 4.3
	20歳代(N=57)	26 45.6	22 38.6	2 3.5	14 24.6	12 21.1	8 14.0	2 3.5	0 0.0	3 5.3	3 5.3
	30歳代(N=118)	57 48.3	58 49.2	41 34.7	32 27.1	4 3.4	18 15.3	3 2.5	4 3.4	4 3.4	0 0.0
	40歳代(N=224)	102 45.5	94 42.0	74 33.0	55 24.6	3 1.3	28 12.5	11 4.9	4 1.8	4 1.8	5 2.2
	50歳代(N=170)	83 48.8	70 41.2	27 15.9	51 30.0	1 0.6	30 17.6	7 4.1	2 1.2	5 2.9	5 2.9
	60歳代(N=96)	34 35.4	30 31.3	8 8.3	36 37.5	2 2.1	37 38.5	8 8.3	7 7.3	1 1.0	4 4.2
	70歳代(N=63)	10 15.9	26 41.3	8 12.7	42 66.7	0 0.0	38 60.3	13 20.6	1 1.6	0 0.0	1 1.6
	80歳代以上(N=15)	0 0.0	5 33.3	0 0.0	6 40.0	0 0.0	6 40.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	3 20.0
性別	男(N=297)	121 40.7	118 39.7	39 13.1	88 29.6	48 16.2	64 21.5	30 10.1	9 3.0	8 2.7	6 2.0
	女(N=581)	216 37.2	245 42.2	117 20.1	174 29.9	66 11.4	133 22.9	23 4.0	12 2.1	16 2.8	21 3.6
	答えない(N=19)	5 26.3	9 47.4	5 26.3	3 15.8	1 5.3	2 10.5	0 0.0	1 5.3	0 0.0	1 5.3
属性 (職業)	常勤(N=353)	203 57.5	147 41.6	81 22.9	92 26.1	7 2.0	58 16.4	19 5.4	12 3.4	6 1.7	9 2.5
	非常勤(N=170)	70 41.2	74 43.5	42 24.7	55 32.4	2 1.2	34 20.0	10 5.9	3 1.8	3 1.8	6 3.5
	自営業(N=33)	20 60.6	13 39.4	10 30.3	10 30.3	1 3.0	13 39.4	5 15.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0
	小学生(N=20)	2 10.0	10 50.0	0 0.0	3 15.0	8 40.0	6 30.0	3 15.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0
	中学生(N=50)	1 2.0	26 52.0	0 0.0	14 28.0	27 54.0	15 30.0	3 6.0	2 4.0	1 2.0	1 2.0
	高校生(N=19)	3 15.8	13 68.4	0 0.0	2 10.5	14 73.7	7 36.8	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	大学・専門等(N=101)	39 38.6	27 26.7	2 2.0	19 18.8	56 55.4	16 15.8	2 2.0	1 1.0	5 5.0	6 5.9
	家事専業(N=94)	4 4.3	43 45.7	18 19.1	39 41.5	0 0.0	30 31.9	2 2.1	1 1.1	3 3.2	1 1.1
	無職(N=56)	1 1.8	19 33.9	7 12.5	26 46.4	0 0.0	18 32.1	5 8.9	1 1.8	2 3.6	4 7.1
	その他(N=11)	2 18.2	2 18.2	1 9.1	7 63.6	0 0.0	7 63.6	2 18.2	0 0.0	2 18.2	0 0.0
	首里地区(N=166)	58 34.9	71 42.8	34 20.5	55 33.1	22 13.3	47 28.3	13 7.8	4 2.4	4 2.4	7 4.2
地域	真和志地区(N=162)	55 34.0	71 43.8	33 20.4	48 29.6	14 8.6	34 21.0	6 3.7	3 1.9	8 4.9	7 4.3
	小禄地区(N=190)	84 44.2	70 36.8	43 22.6	51 26.8	16 8.4	37 19.5	13 6.8	8 4.2	0 0.0	2 1.1
	本庁地区(N=382)	147 38.5	161 42.1	51 13.4	113 29.6	63 16.5	83 21.7	19 5.0	6 1.6	12 3.1	11 2.9

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

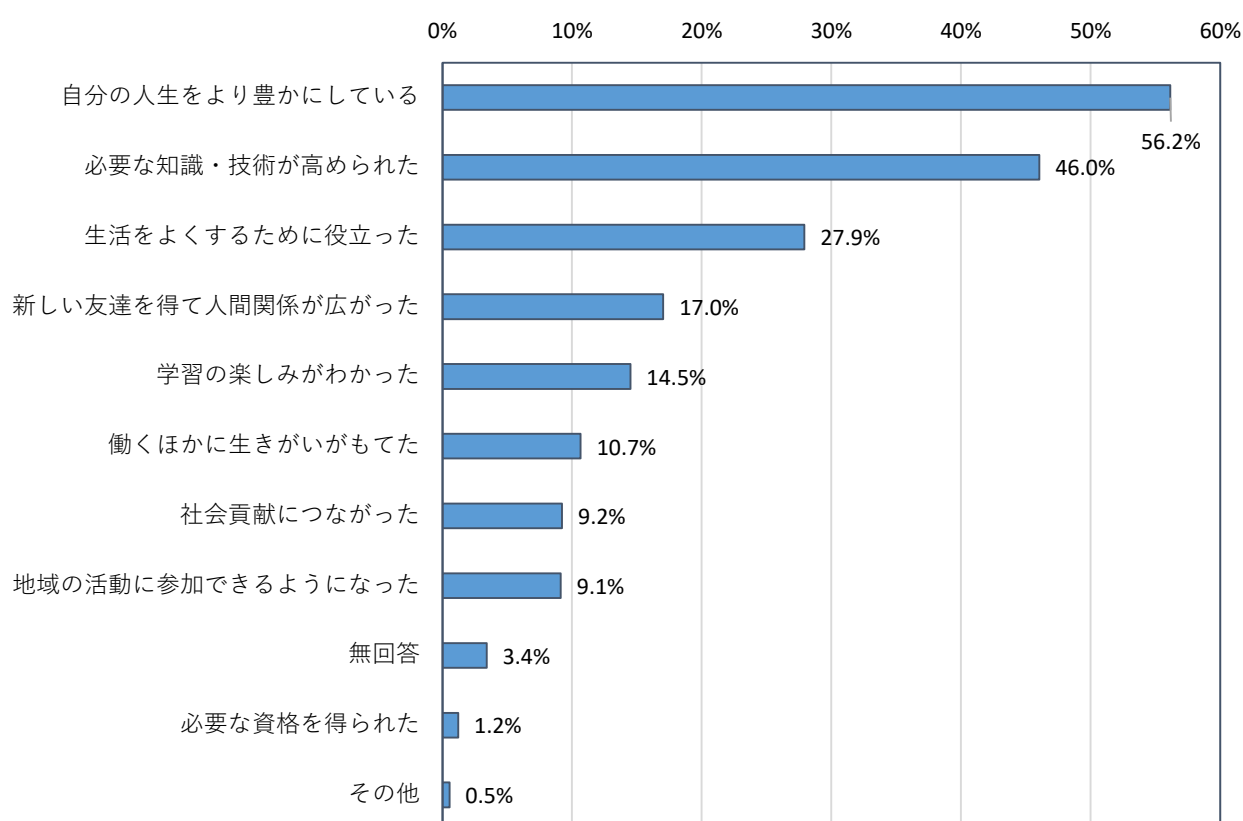
問8. 生涯学習(学ぶ活動)をすることで、よかったと思うことは何ですか。（複数回答）

回答項目	回答数	割合
自分の人生をより豊かにしている	511	56.2%
必要な知識・技術が高められた	419	46.0%
生活をよくするために役立った	254	27.9%
新しい友達を得て人間関係が広がった	155	17.0%
学習の楽しみがわかった	132	14.5%
働くほかに生きがいをもてた	97	10.7%
社会貢献につながった	84	9.2%
地域の活動に参加できるようになった	83	9.1%
無回答	31	3.4%
必要な資格を得られた	11	1.2%
その他	5	0.5%
合計	1782	—
回答者数	910	195.8%

生涯学習をとおして良かったと思うことは、「自分の人生をより豊かにしている」が56.2%となっており、回答者の半数以上となっています。次いで、「必要な知識・技術が高められた」が46.0%となっています。

この結果から、市民が生涯学習活動を通して、個人の幸福度（Well-being）が高められる実感を得ていると捉えることができます。

※複数回答の項目であり、回答者数を母数として割合を算出したため、合計値が100%を超えている。



No. 8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

<問8の属性別集計（年代・性別・属性（職業）・地域）※不明・無回答を除く>

いずれの属性においても、「人生をより豊かにしている」の割合が高い傾向にあります。また、「知識・技術が高められた」「生活をよくする」も理由に挙がっているほか、「人間関係が広がった」との回答もみられます。

※ ■ は1位、■ は2位、■ は3位の項目

回答項目 回答者属性 (N=各属性の回答者数) 上段(回答数) 下段(%)		より豊かに 人生を	知識・技術が 高められた	生活を よくする	学習の 楽しみ	必要な 資格	生きがい	地域の活動に 参加	人間関係が 広がった	社会貢献	その他	無回答
年代	10歳代(N=164)	81 49.4	70 42.7	40 24.4	35 21.3	5 3.0	11 6.7	13 7.9	34 20.7	10 6.1	1 0.6	9 5.5
	20歳代(N=57)	33 57.9	29 50.9	13 22.8	9 15.8	2 3.5	5 8.8	2 3.5	4 7.0	2 3.5	0 0.0	4 7.0
	30歳代(N=118)	72 61.0	59 50.0	47 39.8	16 13.6	1 0.8	14 11.9	8 6.8	13 11.0	9 7.6	1 0.8	3 2.5
	40歳代(N=224)	114 50.9	112 50.0	64 28.6	31 13.8	1 0.4	22 9.8	14 6.3	27 12.1	15 6.7	0 0.0	5 2.2
	50歳代(N=170)	91 53.5	85 50.0	50 29.4	15 8.8	1 0.6	23 13.5	12 7.1	29 17.1	20 11.8	1 0.6	4 2.4
	60歳代(N=96)	57 59.4	42 43.8	27 28.1	9 9.4	0 0.0	12 12.5	14 14.6	17 17.7	16 16.7	2 2.1	2 2.1
	70歳代(N=63)	51 81.0	19 30.2	11 17.5	16 25.4	0 0.0	9 14.3	17 27.0	23 36.5	12 19.0	0 0.0	1 1.6
	80歳代以上(N=15)	10 66.7	3 20.0	2 13.3	1 6.7	1 6.7	1 6.7	2 13.3	7 46.7	0 0.0	0 0.0	2 13.3
性別	男(N=297)	173 58.2	153 51.5	84 28.3	47 15.8	2 0.7	29 9.8	38 12.8	58 19.5	33 11.1	4 1.3	6 2.0
	女(N=581)	321 55.2	256 44.1	162 27.9	81 13.9	8 1.4	63 10.8	43 7.4	92 15.8	50 8.6	1 0.2	24 4.1
	答えない(N=19)	8 42.1	6 31.6	6 31.6	2 10.5	0 0.0	4 21.1	0 0.0	1 5.3	1 5.3	0 0.0	0 0.0
属性 (職業)	常勤(N=353)	200 56.7	187 53.0	115 32.6	43 12.2	2 0.6	39 11.0	23 6.5	50 14.2	30 8.5	1 0.3	11 3.1
	非常勤(N=170)	103 60.6	77 45.3	49 28.8	18 10.6	1 0.6	27 15.9	15 8.8	21 12.4	17 10.0	1 0.6	4 2.4
	自営業(N=33)	20 60.6	18 54.5	9 27.3	7 21.2	0 0.0	7 21.2	9 27.3	8 24.2	9 27.3	1 3.0	0 0.0
	小学生(N=20)	8 40.0	8 40.0	7 35.0	7 35.0	2 10.0	0 0.0	2 10.0	7 35.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0
	中学生(N=50)	24 48.0	22 44.0	16 32.0	13 26.0	3 6.0	2 4.0	4 8.0	13 26.0	4 8.0	1 2.0	1 2.0
	高校生(N=19)	16 84.2	8 42.1	3 15.8	2 10.5	0 0.0	3 15.8	3 15.8	4 21.1	2 10.5	0 0.0	0 0.0
	大学・専門等(N=101)	48 47.5	45 44.6	17 16.8	19 18.8	2 2.0	8 7.9	5 5.0	14 13.9	5 5.0	0 0.0	8 7.9
	家事専業(N=94)	53 56.4	30 31.9	20 21.3	14 14.9	1 1.1	7 7.4	9 9.6	22 23.4	8 8.5	0 0.0	2 2.1
	無職(N=56)	29 51.8	18 32.1	14 25.0	9 16.1	0 0.0	1 1.8	10 17.9	14 25.0	5 8.9	0 0.0	2 3.6
	その他(N=11)	8 72.7	5 45.5	3 27.3	0 0.0	0 0.0	3 27.3	2 18.2	2 18.2	4 36.4	1 9.1	0 0.0
地域	首里地区(N=166)	103 62.0	77 46.4	53 31.9	35 21.1	3 1.8	13 7.8	13 7.8	33 19.9	17 10.2	0 0.0	5 3.0
	真和志地区(N=162)	73 45.1	82 50.6	55 34.0	18 11.1	4 2.5	25 15.4	17 10.5	33 20.4	14 8.6	1 0.6	5 3.1
	小禄地区(N=190)	102 53.7	84 44.2	45 23.7	24 12.6	4 2.1	22 11.6	14 7.4	22 11.6	15 7.9	1 0.5	5 2.6
	本庁地区(N=382)	228 59.7	174 45.5	100 26.2	53 13.9	0 0.0	37 9.7	36 9.4	64 16.8	38 9.9	3 0.8	13 3.4

No. 8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

問9. 生涯学習（学ぶ活動）を行っていない理由は何ですか。（複数回答）

※問5で「（生涯学習を）行っていない」と回答した人のみ

回答項目	回答数	割合
仕事が忙しくて時間がない	60	41.4%
家事・育児・介護などが忙しくて時間がない	56	38.6%
きっかけがない	44	30.3%
費用がかかるため	42	29.0%
必要な情報(内容・時間・場所等)が入手できない	38	26.2%
自分が希望する内容(時間帯含む)がない	22	15.2%
身近なところに活動している施設や場所がない	17	11.7%
身体等の具合が悪い	13	9.0%
一緒に学習・活動する仲間がいないため	12	8.3%
家庭や職場の協力が得られない	10	6.9%
その他	8	5.5%
無回答	5	3.4%
合計	327	—
回答者数	145	222.8%

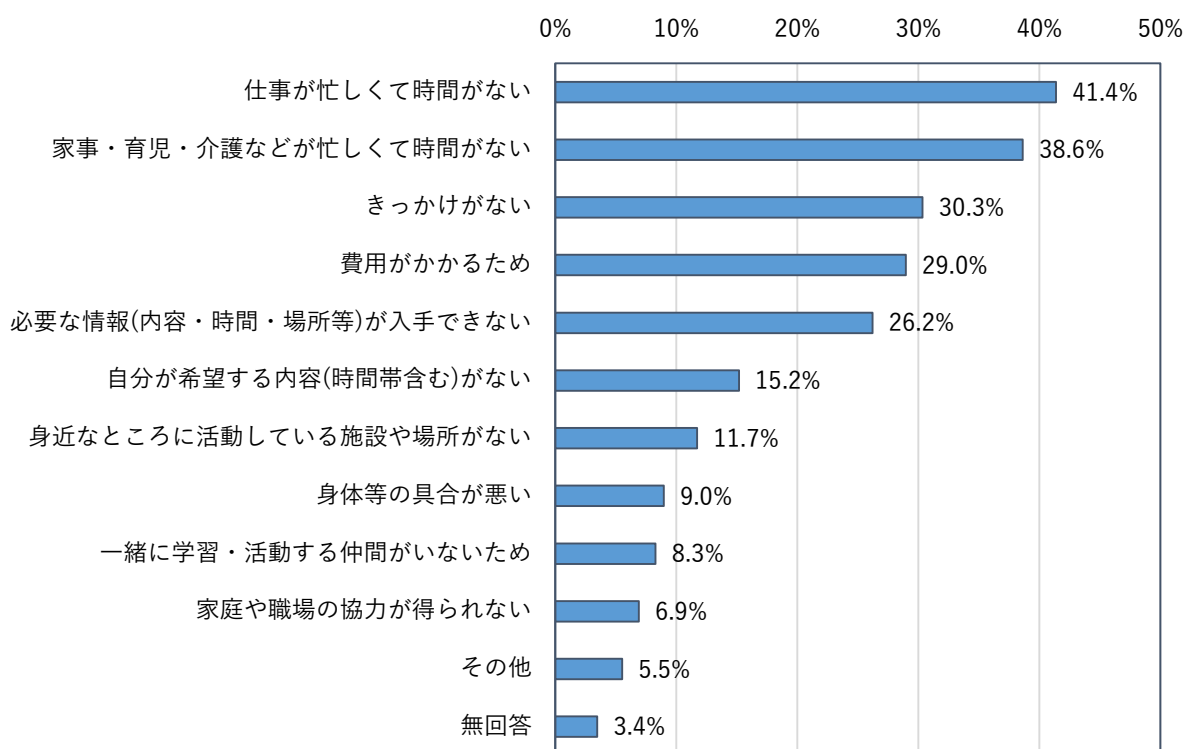
生涯学習を行っていない理由として、「仕事が忙しくて時間がない」が最も多く、41.4%でした。

次いで、「家事・育児・介護などが忙しくて時間がない」となっています。

また、「きっかけがない」との回答も30.3%で3番目に多くなっています。

全体をとおして、主に「時間」、「費用」、「場所」のほか、「情報」や「学ぶきっかけ」の不足などが挙げられており、学習情報の提供や周知方法の工夫・改善についても引き続き推進する必要があります。

※複数回答の項目であり、回答者数を母数として割合を算出したため、合計値が100%を超えている。



No. 8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

＜問9の属性別集計（年代・性別・属性（職業）・地域）※不明・無回答を除く＞

年代別でみると、「仕事」「家事・育児・介護」で時間がなく、生涯学習活動を行っていない様子が窺えます。また、「費用がかかる」「情報が入手できない」「きっかけがない」「身近な施設や場所がない」等の理由もあがっています。

※ ■ は1位、■ は2位、■ は3位の項目

回答項目 回答者属性 (N=各属性の回答者数) 上段(回答数) 下段(%)		仕事で時間がない	家事・育児・介護で時間がない	費用がかかる	仲間がいない	情報が入手できない	きっかけがない	身近な施設や場所がない	協力や職場の関係が得られない	希望する内容がない	具合が悪い	その他	無回答
年代	10歳代(N=7)	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 42.9
	20歳代(N=7)	3 42.9	3 42.9	2 28.6	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3
	30歳代(N=24)	11 45.8	11 45.8	5 20.8	1 4.2	6 25.0	6 25.0	5 20.8	4 16.7	6 25.0	3 12.5	1 4.2	0 0.0
	40歳代(N=51)	24 47.1	31 60.8	19 37.3	4 7.8	11 21.6	14 27.5	3 5.9	2 3.9	7 13.7	2 3.9	2 3.9	0 0.0
	50歳代(N=34)	13 38.2	7 20.6	10 29.4	2 5.9	10 29.4	12 35.3	7 20.6	2 5.9	4 11.8	3 8.8	4 11.8	0 0.0
	60歳代(N=16)	5 31.3	4 25.0	2 12.5	4 25.0	7 43.8	8 50.0	1 6.3	0 0.0	3 18.8	3 18.8	1 6.3	1 6.3
	70歳代(N=4)	3 75.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	3 75.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	80歳代以上(N=2)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
性別	男(N=34)	16 47.1	9 26.5	7 20.6	5 14.7	11 32.4	14 41.2	3 8.8	3 8.8	3 8.8	5 14.7	5 14.7	2 5.9
	女(N=106)	43 40.6	44 41.5	32 30.2	5 4.7	25 23.6	30 28.3	12 11.3	7 6.6	17 16.0	7 6.6	3 2.8	3 2.8
	答えない(N=4)	1 25.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
属性 (職業)	常勤(N=60)	40 66.7	27 45.0	12 20.0	4 6.7	13 21.7	20 33.3	9 15.0	5 8.3	6 10.0	1 1.7	6 10.0	0 0.0
	非常勤(N=35)	16 45.7	16 45.7	13 37.1	1 2.9	11 31.4	8 22.9	3 8.6	3 8.6	11 31.4	0 0.0	0 0.0	1 2.9
	自営業(N=3)	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	小学生(N=0)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中学生(N=3)	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高校生(N=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	大学・専門等(N=4)	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0
	家事専業(N=24)	0 0.0	10 41.7	10 41.7	2 8.3	9 37.5	11 45.8	1 4.2	1 4.2	2 8.3	3 12.5	1 4.2	0 0.0
	無職(N=14)	0 0.0	1 7.1	5 35.7	4 28.6	4 28.6	3 21.4	4 28.6	1 7.1	3 21.4	9 64.3	0 0.0	0 0.0
	その他(N=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
地域	首里地区(N=22)	8 36.4	12 54.5	8 36.4	1 4.5	7 31.8	9 40.9	3 13.6	2 9.1	3 13.6	2 9.1	1 4.5	0 0.0
	真和志地区(N=22)	8 36.4	5 22.7	3 13.6	3 13.6	11 50.0	7 31.8	3 13.6	1 4.5	2 9.1	3 13.6	2 9.1	1 4.5
	小禄地区(N=42)	20 47.6	23 54.8	14 33.3	1 2.4	8 19.0	15 35.7	4 9.5	3 7.1	6 14.3	1 2.4	1 2.4	0 0.0
	本庁地区(N=59)	24 40.7	16 27.1	17 28.8	7 11.9	12 20.3	13 22.0	7 11.9	4 6.8	11 18.6	7 11.9	4 6.8	0 0.0

No. 8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

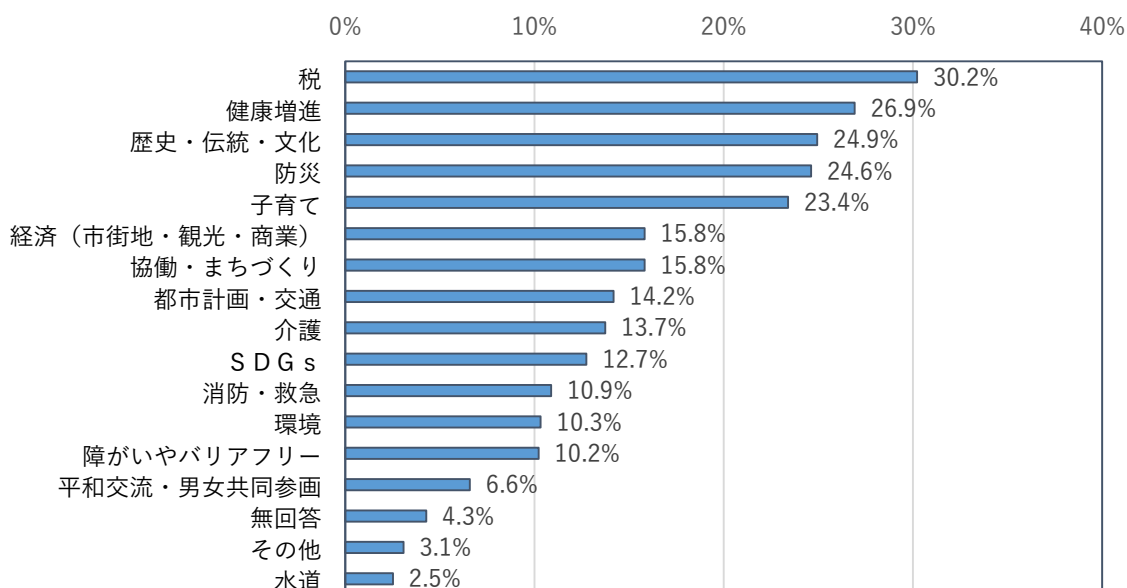
問10. 市役所が行う市民向けイベントや講座を通して、知りたいもしくは気になっている知識・分野はありますか。（複数回答）

回答項目	回答数	割合
税	275	30.2%
健康増進	245	26.9%
歴史・伝統・文化	227	24.9%
防災	224	24.6%
子育て	213	23.4%
経済（市街地・観光・商業）	144	15.8%
協働・まちづくり	144	15.8%
都市計画・交通	129	14.2%
介護	125	13.7%
SDGs	116	12.7%
消防・救急	99	10.9%
環境	94	10.3%
障がいやバリアフリー	93	10.2%
平和交流・男女共同参画	60	6.6%
無回答	39	4.3%
その他	28	3.1%
水道	23	2.5%
回答数	2278	—
回答者数	910	250.3%

市役所が行う市民向けイベント等で知りたい・気になっている知識・分野について、「税」が最も多く、30.2%でした。市民の生活に密接に関わる税のことについて、学習ニーズが高いことが表れています。

また、「健康増進」「歴史・伝統・文化」に次いで、「防災」が24.6%となっています。近年、全国的に連続して発生する災害（台風、豪雨災害、津波、猛暑や地震等の影響によるコメ不足など）に対する危機意識が市民にも広がっていると推察されます。他方、令和4年度以降に那覇市が市民参加型形式を中心とした防災の取り組みを推進していることも、市民の防災意識の醸成につながっている可能性があるかと推察できます。

※複数回答の項目であり、回答者数を母数として割合を算出したため、合計値が100%を超えている。



No. 8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

<問10の属性別集計（年代・性別・属性（職業）・地域）※不明・無回答を除く>

年代別にみると、10～20代は「税」、30～40代は「子育て」、50代以上は「健康増進」の割合が高くなっています。また、属性（職業）をみると、常勤・非常勤職員は「税」、自営業は「協働・まちづくり」、小・中学生は「歴史・伝統・文化」「SDGs」、家事専業・無職は「健康増進」に関心が高い傾向がみられます。地域別にみると、全体的に「税」に関心が高く、「健康増進」「防災」「歴史・伝統・文化」に関心がある様子が窺えます。

※ ■ は1位、■ は2位、■ は3位の項目

回答者属性 (N=各属性の回答者数) 上段(回答数) 下段(%)		回答項目																
		税	子育て	防災	消防・救急	健康増進	障がい・バリアフリー	介護	水道	環境	経済	文化・歴史・伝統・交通	都市計画・まちづくり	協働・SDGs	男女共同参画	平和交流・その他	無回答	
年代	10歳代(N=164)	46 28.0	23 14.0	21 12.8	25 15.2	15 9.1	15 9.1	2 1.2	4 2.4	16 9.8	21 12.8	29 17.7	17 10.4	14 8.5	31 18.9	15 9.1	5 3.0	16 9.8
	20歳代(N=57)	20 35.1	19 33.3	15 26.3	4 7.0	10 17.5	6 10.5	3 5.3	3 5.3	10 17.5	11 19.3	11 19.3	5 8.8	8 14.0	3 5.3	0 0.0	2 3.5	3 5.3
	30歳代(N=118)	52 44.1	53 44.9	29 24.6	12 10.2	28 23.7	13 11.0	8 6.8	4 3.4	7 5.9	28 23.7	29 24.6	18 15.3	13 11.0	7 5.9	8 6.8	3 2.5	3 2.5
	40歳代(N=224)	75 33.5	84 37.5	66 29.5	25 11.2	58 25.9	25 11.2	28 12.5	8 3.6	17 7.6	34 15.2	53 23.7	40 17.9	44 19.6	26 11.6	16 7.1	5 2.2	6 2.7
	50歳代(N=170)	48 28.2	26 15.3	52 30.6	22 12.9	57 33.5	18 10.6	36 21.2	2 1.2	15 8.8	32 18.8	55 32.4	27 15.9	33 19.4	19 11.2	10 5.9	8 4.7	2 1.2
	60歳代(N=96)	20 20.8	6 6.3	24 25.0	5 5.2	36 37.5	10 10.4	20 20.8	2 2.1	16 16.7	11 11.5	29 30.2	16 16.7	17 17.7	17 17.7	8 8.3	4 4.2	4 4.2
	70歳代(N=63)	11 17.5	2 3.2	16 25.4	6 9.5	33 52.4	4 6.3	21 33.3	0 0.0	11 17.5	6 9.5	21 33.3	5 7.9	13 20.6	11 17.5	2 3.2	1 1.6	2 3.2
	80歳代以上(N=15)	2 13.3	0 0.0	1 6.7	0 0.0	7 46.7	2 13.3	6 40.0	0 0.0	2 13.3	1 6.7	0 0.0	1 6.7	2 13.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0	2 13.3
	性別	男(N=297)	97 32.7	47 15.8	59 19.9	31 10.4	75 25.3	25 8.4	37 12.5	6 2.0	32 10.8	64 21.5	86 29.0	62 20.9	67 22.6	35 11.8	10 3.4	8 2.7
女(N=581)		166 28.6	158 27.2	159 27.4	65 11.2	162 27.9	64 11.0	83 14.3	15 2.6	61 10.5	76 13.1	136 23.4	63 10.8	74 12.7	79 13.6	49 8.4	20 3.4	28 4.8
答えない(N=19)		8 42.1	7 36.8	6 31.6	2 10.5	4 21.1	3 15.8	2 10.5	2 10.5	1 5.3	2 10.5	3 15.8	1 5.3	2 10.5	1 5.3	0 0.0	0 0.0	2 10.5
属性(職業)		常勤(N=353)	110 31.2	99 28.0	99 28.0	31 8.8	93 26.3	23 6.5	42 11.9	8 2.3	26 7.4	71 20.1	106 30.0	66 18.7	62 17.6	43 12.2	23 6.5	8 2.3
非常勤(N=170)	65 38.2	44 25.9	57 33.5	22 12.9	52 30.6	19 11.2	29 17.1	4 2.4	15 8.8	28 16.5	39 22.9	23 13.5	26 15.3	16 9.4	12 7.1	7 4.1	3 1.8	
自営業(N=33)	3 9.1	5 15.2	9 27.3	3 9.1	6 18.2	5 15.2	4 12.1	0 0.0	5 15.2	11 33.3	10 30.3	5 15.2	14 42.4	3 9.1	2 6.1	1 3.0	3 9.1	
小学生(N=20)	4 20.0	2 10.0	2 10.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	0 0.0	5 25.0	2 10.0	1 5.0	4 20.0	2 10.0	1 5.0	4 20.0	
中学生(N=50)	9 18.0	6 12.0	8 16.0	2 4.0	4 8.0	6 12.0	0 0.0	3 6.0	7 14.0	5 10.0	12 24.0	1 2.0	1 2.0	12 24.0	4 8.0	4 8.0	6 12.0	
高校生(N=19)	5 26.3	2 10.5	4 21.1	1 5.3	2 10.5	1 5.3	0 0.0	0 0.0	3 15.8	3 15.8	3 15.8	3 15.8	1 5.3	5 26.3	2 10.5	0 0.0	3 15.8	
大学・専門等(N=101)	36 35.6	24 23.8	10 9.9	20 19.8	12 11.9	10 9.9	4 4.0	3 3.0	13 12.9	19 18.8	15 14.9	13 12.9	14 13.9	13 12.9	7 6.9	1 1.0	3 3.0	
家事専業(N=94)	24 25.5	26 27.7	18 19.1	10 10.6	43 45.7	18 19.1	26 27.7	5 5.3	10 10.6	4 4.3	20 21.3	9 9.6	12 12.8	12 12.8	6 6.4	4 4.3	2 2.1	
無職(N=56)	17 30.4	4 7.1	15 26.8	6 10.7	26 46.4	10 17.9	17 30.4	0 0.0	9 16.1	2 3.6	14 25.0	6 10.7	9 16.1	7 12.5	1 1.8	0 0.0	3 5.4	
その他(N=11)	1 9.1	1 9.1	2 18.2	0 0.0	4 36.4	0 0.0	2 18.2	0 0.0	4 36.4	1 9.1	3 27.3	1 9.1	4 36.4	1 9.1	0 0.0	2 18.2	0 0.0	
地域	首里地区(N=166)	54 32.5	38 22.9	52 31.3	21 12.7	50 30.1	17 10.2	20 12.0	7 4.2	21 12.7	18 10.8	52 31.3	23 13.9	31 18.7	31 18.7	11 6.6	4 2.4	5 3.0
	真和志地区(N=162)	52 32.1	33 20.4	34 21.0	12 7.4	54 33.3	24 14.8	26 16.0	6 3.7	21 13.0	23 14.2	43 26.5	26 16.0	24 14.8	22 13.6	7 4.3	7 4.3	10 6.2
	小禄地区(N=190)	61 32.1	66 34.7	52 27.4	22 11.6	42 22.1	12 6.3	21 11.1	2 1.1	24 12.6	36 18.9	35 18.4	21 11.1	27 14.2	25 13.2	14 7.4	5 2.6	8 4.2
	本庁地区(N=382)	107 28.0	75 19.6	86 22.5	42 11.0	96 25.1	40 10.5	57 14.9	8 2.1	28 7.3	67 17.5	96 25.1	59 15.4	62 16.2	38 9.9	25 6.5	12 3.1	13 3.4

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

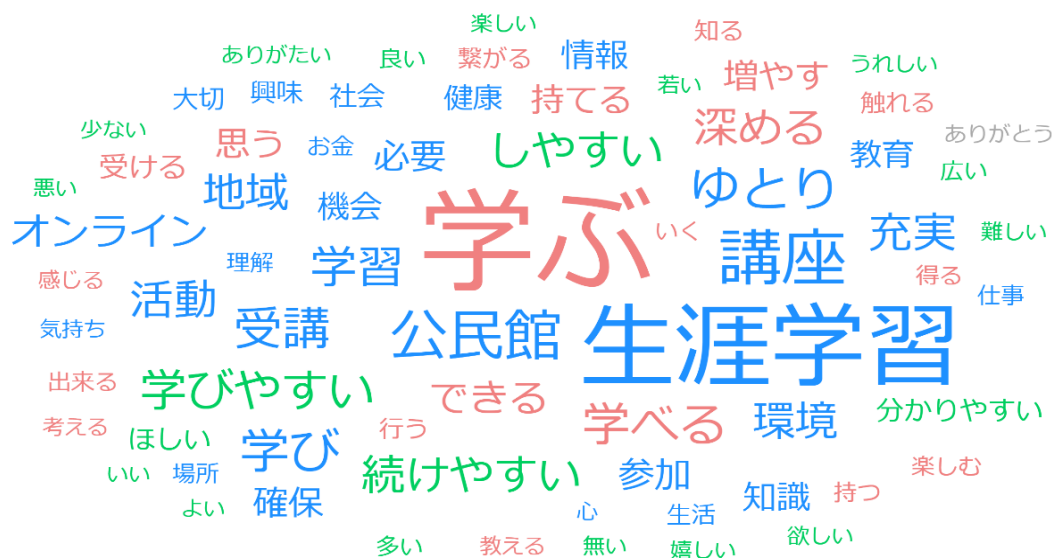
問1 1. 自分の生涯学習(学ぶ活動)を充実するために、必要だと思うことがあれば教えてください。
(自由記述欄)

＜自由記述回答数（有効回答）：273＞

自由記述回答から、テキストマイニングの手法（テキスト情報（文章）から、新たな情報や知識を探し出し、抽出するための方法※）をもちいて分析を行いました。

出現頻度が高い単語ほど、文字が大きく示されています。赤字は動詞、青字は名詞、緑字は形容詞を示しています。

※引用：「テキストマイニングとは何か」, 東京大学 大学院新領域創成科学研究所 井筒信夫.



＜ 図 自由記述回答においてテキストマイニングを用いた分析結果＞

出典：ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

分析結果を見ると、「学ぶ」「生涯学習」が頻出している他、「公民館」「講座」などの語句も目立ちます。動詞では、「学ぶ」の他に「深める」「できる」などの語句がやや大きくなっています。形容詞では、「学びやすい」「続けやすい」などの語句がやや大きく表示されていることから、そのような学習機会や環境等を求めるニーズが高い傾向にあることが推測できます。

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

問11. 自分の生涯学習(学ぶ活動)を充実するために、必要だと思うことがあれば教えてください。
(自由記述欄)

<以下、自由記述回答の一部を掲載します。※回答内容は修正せず、そのまま掲載しています。>

- ・共働きなので、時間の確保が難しい。オンラインを使って、臨機応変に学ぶ場所を、もっともっと増やしてほしい
- ・仕事に追われ、その他の興味に向かう時間やお金がない。仕事以外の分野での学びや生きる力を身につけるには、時間と気持ちにゆとりがなければならないと思う。
- ・自宅近くにある町内会(自治会)などの公民館で講座などを開催してもらえたら参加しやすいと思う。市内の公民館は駐車場が狭い、バス停が遠いなどの行きづらい場所もあるので。地域の公民館であれば、車がない高齢者や障がい者の方も参加しやすいのでは？と思います。スマホの講座を受けてみたい高齢者は多い(私の親も含めて)様に思う。各自治会、老人会等と連携して開催出来たら面白いのではないのでしょうか？
- ・自分自身は、豊かな人生を送るために生涯学習は必要不可欠と思っているが、課題が多い人生100年時代を、
家族はもちろんのこと、友人、地域、強いて言うなら誰もが健やかに幸せに生きて欲しいと願う。共に学べる仲間、
機会が多いと嬉しい。個人的には、IT化等社会の変化に付いていけるように努力したいと思っている。
- ・市には市にしかできない、あるいは市に特有の事項（市議会についてや市の歴史について）の講座に力を入れていただきつつ、経済等の分野については既存の学習ツールの利用支援などを行ってほしい。
- ・年を取るとなかなか学ぶところも無く、もっと過去に出来なかった学びの範囲を増やして欲しい。
- ・学ぶ活動を充実するためには、やはり時間的、経済的なゆとりや余裕が必要だと思います。
- ・人生楽しく、健康で元気に、仲間づくりで学ぶことが大事だと思います。
- ・世代間交流の場があるといい
- ・介護や語学、己のRoutes、iDeCo、子供への性教育に関すること
- ・オンラインでいつでも視聴できるようにする。市民なら無料
- ・AI英会話など、AIを上手く取り入れ使い方を工夫すること。
- ・子供を持ち、30代になって学びたいことや知りたいこと、身につけたい経験が増えましたが、夫婦フルタイムの共働きで子供を見る時間も足りてないと思うのに、学習をする機会がほとんどないと感じる現状です。上記の選択式の回答は、インターネットや、少しのニュースの時間を以て「学んだか学んでないかで言えば学んだ」程度の回答でしかないです。もっと時間をとって学びの機会を得たいです。
- ・生涯学習が生かせる環境がもっと有れば良いと思う。それが少しでも金銭に結びつけばもっと良いと思う。もう歳だからというのではなく、社会参加出来ると若い人達とも知り合えと考えます。

No. 8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

- ・学習の場が気軽に行ける場所にあること。単に学ぶだけでなく、人とのネットワーク、繋がりが築けるものであること。
- ・社会と繋がっていたい 仕事が出来たらいい 歳をとっても出来る仕事があったらいい
- ・知識を深めたいと思うが、子育て・仕事の繰り返しで1日のタスクをこなすことに精一杯。仕事を減らし時間を作ると、収入が減り子育てに影響が出るためできず、かといって現在のままでは、仕事での昇格のため資格取得をする勉強も、子ども達への家庭内教育も充実しておらず、八方塞がりを感じているため、生涯学習を充実させるために必要な事、今できることは何なのか教えていただきたい。
- ・経済的なゆとりと時間が必要ではありますが、学んだことを子供や家族に共有したり、楽しむことがより充実すると思います。親子で参加できるイベントなど、低予算で沖縄の文化に触れるものなどあるといいなと思います。
- ・もうすぐ60代に差し掛かりますが、学んだことがこれからのキャリアプランに活かすことができればもっと意欲がわくと思っています。60代以降でも活動できる場所を模索しています
- ・特に若い子供達に金融知識を伝えていきたい。
- ・20代から30代の人向けの生涯学習 社会課題や地域に関して関心を持てるような講座 また、横の繋がりが生まれるようなイベントがあれば参加したい。
- ・自由な時間の確保 講座などがオンラインで受けられる 講座の受けられる場所や時間帯の柔軟な対応
- ・受けてみたい講座や教室があっても、別の予定があって断念することが多い。特定の曜日や時間帯でなく、複数の選択肢があればよいのと思うことがしばしばある。また、例えば10回講座だとなかなか全回出席することが難しいので、柔軟に受講できるしくみがあればよいと思う。もっともっと学習していきたいので、よろしくお願いします！
- ・周知がもっとあれば良いと思う。自分から情報を取りに行かないとつい忘れてしまったり。目にする事で、なんとなくやってみようというきっかけにもなるかなと思う。
- ・学ぶ活動はそれだけで生きる力に直結すると感じます。学ぶことは心の余裕も生まれて、老害と言われるようなこと減りますし、大人が楽しんでいれば子どもの将来の期待にも繋がります。子どもの世界はとても閉鎖的です。お友達の家でも遊ばせん。もっと大人の認識を変えていく必要があります。保護者間でもコミュニケーションとれない環境があります。極端に人との関わりを拒絶しているように思えます。世界の教育方法や余暇の過ごし方などを参考に良いところを取り入れていくことも大事なのではないかと痛感します。
- ・学生時代に教わる機会があまり無かったこと、税や社会保障の知識、困った時のセーフティネットなど、若い世代が知っておくべき事を紹介する講座を開催してほしい。また、同時にアクセスしやすい動画配信を検討していただきたい。配信が難しい場合は、講座実施後に動画を那覇市ホームページに掲載する等の対応でもありがたい。
- ・図書館のような学べる場所の充実
- ・学習環境の拡大、公立小中学校や、公園等、公共施設のさらなる活用を検討して、欲しい！
- ・親子で楽しめる生涯学習が出来る機会を増やして欲しいです。

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

- ・公民館にWi-Fi環境を整備して生涯学習などに活用できるようにしてほしい。各地域のこども会を充実させて地域の一員である意識を育成するプログラムをどんどんやってほしい。そうすることで地域の帰属意識が芽生え地域活動が活性化すると考えます。
- ・会社定年後は、簡単にできる農作業をやってみたいので、その事前体験や予備知識が得られる機会があれば良い
- ・退職後の第二の人生のライフプランニング。ライフシフトについて。リスキリング。
- ・SDGs関連で地球温暖化について市民レベルで出来る事があれば勉強したい
- ・オンラインの研修があれば、受けたいです。特に、働いている為、自宅で健康に関する運動や料理教室など、メタボ対策のオンラインプログラムがあれば、受講したいです。
- ・読書ほか情報へのアクセス。時間、金、距離などのバリアは可能な限り減らしたい。その意味で電子書籍サブスクが普及してきて嬉しい。
- ・自習する場所の提供（他者に干渉されない程度の囲いがある方が良い）
- ・一般的な教養の学習・地域（子供達も含め）との繋がり・清掃活動などボランティア活動
- ・親の介護や自分自身の健康増進 孫育て(遊べる・学べる環境)
- ・真和志地区での学習できる施設がなく学ぶ機会がない。・市立図書館のある寄宮は交通の便が悪く立ち寄る機会が少ない。・真和志支所の空きスペースを使って出前講座等ができないか。
- ・仕事をしているとどうしても時間が取れない。オンラインで受講するか、オンデマンド受講等の環境が必要と感じる。
- ・那覇市立図書館の内容の充実を希望します。具体的には新刊や雑誌について蔵書の拡充、職員のレベルアップ、利用し易い館内レイアウト等々。
- ・65才定年後の生き方、社会とのつながりを持てる活動を始めたいと思い始めている。
- ・今後の人生を考える意味での「生きがい」や「幸福感」について、学ぶ機会や学ぶ活動があれば参加してみたい。
- ・障がい福祉・教育などの分野が増えてほしい。
- ・自身の興味関心に合わせた情報の取得。自分から情報を取りに行くには限界があるため、必要な情報がスマホに表示されたい。
- ・コミュニティとの関わり 地元の歴史や文化を学ぶことで、自分自信のアイデンティティの確立に繋がる
- ・何歳になっても学ぶ姿勢でいることは人として大切なことであり、謙虚な姿勢、感謝の気持ち、温かい心にも繋がると思うので生涯学習は必要である。
- ・市のホームページなどで生涯学習に関するイベントなどを一括して発信してくれると助かります。例えば今度どんなものが行われるか、イベントカレンダーや特設ページなどで一覧できると探しやすい。

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

- ・県や市町村が実施する生涯学習は、平日や昼間の時間帯が多いが、仕事をしている者からすると、夜の時間帯やオンラインでの受講なども設定してくれると参加しやすくなる。
- ・きっかけ、動機になるもの。学習結果が社会貢献に直結する事が分かりやすく理解出来る説明。
- ・一歳児がいる為、一緒に参加可能な講座やオンライン講座、託児可能な施設があれば、もっと色々学ぶ時間が確保できるかと考えております。
- ・那覇市立図書館の蔵書をもっと充実して欲しい。
- ・市の学び教育で、仕事場で、稼働出来る資格が持てると良いですね。無料での講習会でお金が戻るシステムだと、うれしいです。
- ・興味ある講座があっても、申し込む、参加する、定期的に通うという面倒さが勝ってやらない人も多いと思う。自宅でネット環境でいろんなジャンルを用意し気軽に参加できるようにするなどスタートのハードルを下げる、次回講座(少しレベルアップしていく)を設定するなどしていけば、少しは生涯学習の定着につながるのでは。
- ・生理の貧困問題に市民がもっと興味を持ってほしい。また行政も積極的に関わってほしい
- ・園芸で都市の緑樹活動にゴーヤカーテンを推進してもらいたい
- ・1. 活動の場の提供 2. 公民館の有効活用
- ・情報を得る力が必要、自分で必要な情報にたどり着き、ファクトチェックまでできる能力がないと、怪しい講座とかに引っかかるかもしれない
- ・沖縄に居て、国際的コミュニティに参加したりボランティア活動、アメリカと沖縄のコミュニティなど
- ・那覇市の公民館や図書館について、駐車場がとても少なく、行っても空気が無く帰った事が多々あった。
- ・心地よい環境、時間の過ごし方をもっと体験すべき。学びとは豊かな人生を育む大切な行いだと思う。環境については自分自身もその一部であると理解し、受容的な姿勢、態度をもって向き合っていきたい。
- ・学ぶための時間を確保すること もっと給料を良くしていかないと時間を作るのが難しく感じます 環境も自習室など市のものをもう少し増やしていただけたらありがたいです。 県外に住んでいましたが 図書館の自習室がもっとたくさんありました。お弁当食べたり休憩スペースも充実していて勉強続けやすかったです。
- ・那覇市の公民館の発信！ ホームページが更新されてない時もある。
- ・適正な値段での受講。公的な助成で無料で受講できることが当たり前になると学びの質と価値が下がる。
- ・sns等を活用した情報が一括で得られるサイトやアプリ等があれば繋がりが広がると感じます。
- ・夜の時間に受講するために、小学生のこどもの預かり先
- ・身近に整備された環境があること。例えば図書館だったり(ハード)、充実した講座(ソフト)の企画があること。
- ・ライフスタイルもそれぞれなのでいろいろな時間帯や曜日に教室や講座がやっていけば参加機会も増えると思います。

No.8 市民アンケート

【回答結果】生涯学習に関する那覇市民アンケート調査（令和6年度実施）

- ・まずは、様々な角度から勇気を出してチャレンジすること。学ぶためには、興味を持つことが大事だと思うので色々な環境に飛び込む事が大切だと思う。
- ・生涯学習活動をする時間が必要。仕事、家庭のこと以外のことに費やす時間がほばないため。
- ・A I を活用した相談窓口の充実
- ・那覇新都心に公民館を設置する。
- ・自宅以外で学ぶ環境（カフェや図書館）があるということが必要だと思います。
- ・環境の事は学びたいのですが、知ってる内容ではなく、今取り組んでいて、すぐに参加できるものを教えてほしいです。教育の貧困なども
- ・なるべく費用はかからず、知識を増やしていけるようなサービスが受けられるようにしてほしいです。
- ・人と交流することで刺激を受け、自分自身の成長につながると思っています。そのために必要なことは、人と交流し意見を交わすことで考えや人間関係を構築することができると思います。
- ・仕事中心になってしまい、正直自分のための生涯学習の時間は取れません。何か…那覇市で「学ぶ日」みたいな日を設定して無料（助成金？補助金？）でリフレッシュや自己投資、自己学習、新しいことへの挑戦できる日があったらいいな♡
- ・いくつ（何才）からでも学習できる場と公共交通機関の充実（利便性）
- ・①視覚に障がいがあるがスマホを使いこなすにはどうすればよいか。②チャットGPTで質問して相談してみたい
- ・身体を鍛える軽い楽しくできる運動があったらいいと思う。
- ・ライフワークとして地域の歴史的な文化財の美化に取り組んでいます。文化財を紹介することや守ることなど、広く知らせることが必要だと思う。地域の歴史を学ぶ講和を公民館で開くなど。
- ・小学校での教育（薬物乱用防止、がん教育、性教育）
- ・ずっと一人（同性愛者なので）です。子どもと一緒に、おみあい以外のものが欲しいです。
- ・隣人との協力関係や声かけによる支援の相互扶助による明るい町づくりに心を尽くす一助になれば良い。
- ・時間とお金と心のゆとり（子育てと仕事と学習のバランス）
- ・活動を多く行うには教えるスタッフさんなど、手伝える人を集めて活動を行うことが必要だと思う。
- ・様々な人との交流、意見交換などを行うため
- ・私も夫も75才で、未だ介護保険のお世話にはなっていません。いよいよ使用しなければならぬ日までにお世話になる包括支援センターの場所や手続の仕方など知る機会がほしいと思います。

第3次 那覇市生涯学習推進計画

発行日： 2025（令和7）年3月
作成者： 那覇市
問合せ先： 生涯学習部 生涯学習課
住所： 900-8553 沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号 市庁舎10階
電話番号： 098-917-3502